

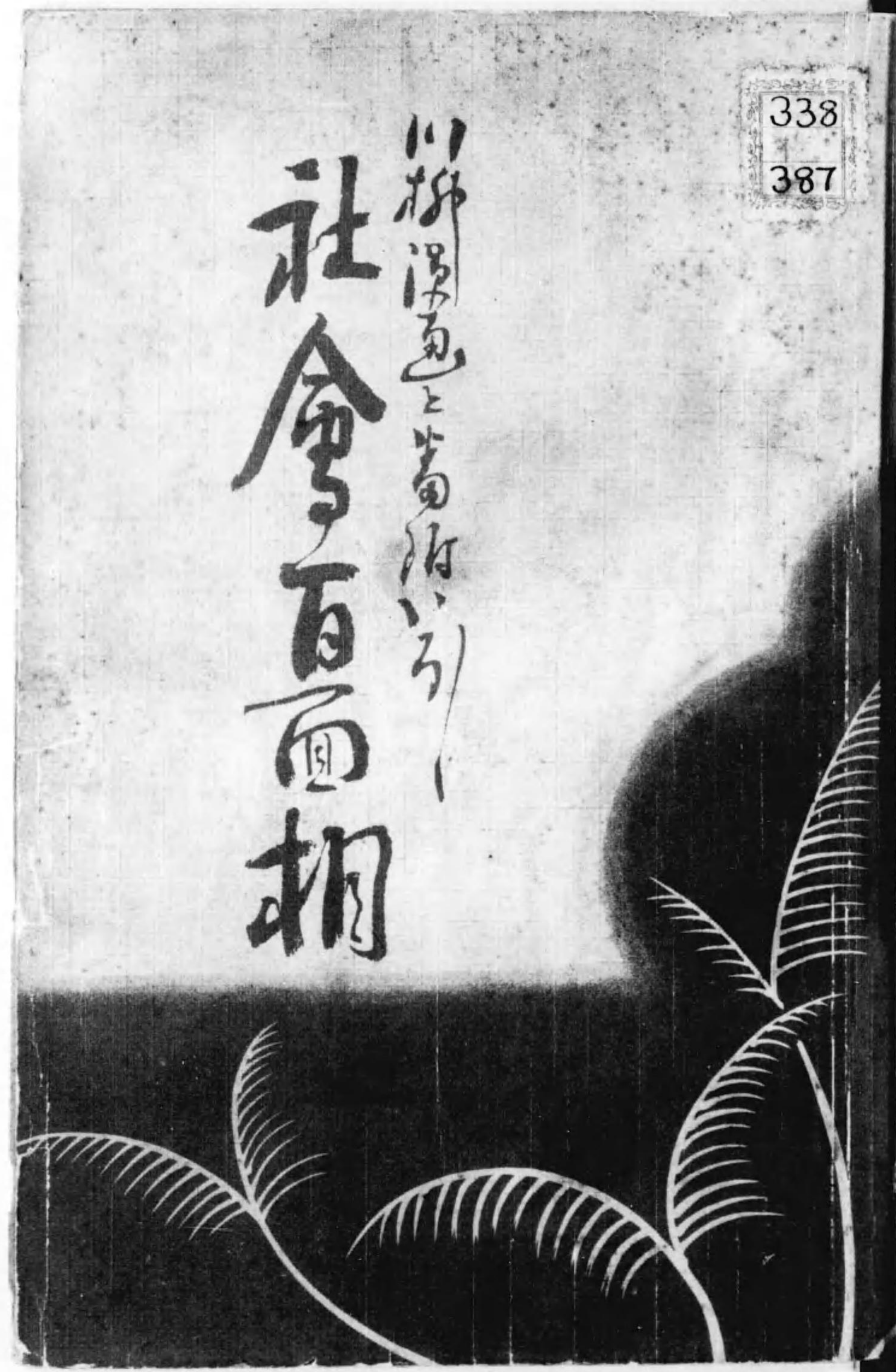
338  
387

川柳漫遊之草野行

社會百面相



始



持231  
774



川柳漫畫と番附いろく

社會百面相



# 川柳漫畫

谷協素文畫

涼み臺……………	二	子供の世界……………	九六
今様女風俗……………	二二	途上スケッチ……………	一一二
車中風景……………	二七	新家庭……………	一一八
子煩惱……………	三二	大道商人……………	一二三
高賣往來……………	四二	女護ヶ島……………	一二九
獨身俱樂部……………	五六	嫁さま……………	一四〇
いたづら盛り……………	六〇	天下泰平……………	一五二
顔づくし……………	六六	スポーツ……………	一五八
娘百景……………	七二	親爺……………	一六〇
雨……………	七六	世帯かのみ……………	一六四
放屁……………	八二	幻滅……………	一七一
丸鬚……………	八八	人生小景……………	一七二
新婚時代……………	九四	世はさま……………	一七八

顔さま／＼	一九九	持てあます	一三七
あくび	二〇〇	向つ腹	一三八
親心	二〇五	スピード	一四一
犬	二一三	子寶	一四二
相撲	二一四	お父ちゃん	一四五
道楽	二一五	色とり／＼	一四八
パノラマ	二一八	やど六比べ	一五〇
ビク／＼もの	二一九	長閑	一五三
お客いろ／＼	二二〇	若盛り	一五八
人間味	二二一	角かくし	一六〇
男心	二二四	親馬鹿	一六四
女心	二二五	お正月	一六六
縮尻	二二六	春爛漫	一六七
得意然	二二七	世の中	一六九
往來所見	二二九	ほがらか	一八一
とんちんかん	二三六		

番附いろ／＼

社會萬般番附大集より

近世名士幼名番附	八九	電話番号記憶番附	一六八
江戸東京見立番附	九	食物消化番附	七〇
全國主要名産食料品番附	一〇	將棋指洒落詞番附	七九
教訓俳句番附	二四	滑稽問答秀逸番附	八〇
俳句川柳親と子番附	二六	全國名所著名俳句番附	八四
國産主要品主産地番附	三〇	小唄語呂合せ番附	八六
難讀苗字番附	三七	現行保護鳥番附	九三
常用漢字事物變讀番附	三八	癪に障るもの番附	一〇九
野菜漢字難訓番附	四〇	當代悪口見立番附	一〇
植物漢字難訓番附	四一	男女呼び方くらべ番附	一一一
俚語語呂合せ番附	五二	現代流行義太夫番附	一二四
ホコトン俚語番附	五三	現代流行常磐津番附	一二五
東西いろは譬番附	五四	現代流行歌澤番附	一二六
古今婦人俚語番附	五五	現代流行長唄番附	一二七
世界動物命數番附	五八	現代流行琵琶歌番附	一二八
樹木年齢番附	五九	江戸文學著名俳句番附	一三六
古今俚語番附	六四	川柳美男美女番附	一三七

不食山海珍味番附	一三八	著名難訓地名番附	二〇四
動物應用譬喩詞番附	一三九	梅櫻詠込都々逸番附	二一〇
古今「雪」名句番附	一四六	古川柳秀句番附	二一一
古今「月」名句番附	一四八	諸國著名俗諺番附	二一二
古今「花」名句番附	一五〇	一の字冠事物番附	二一六
古今教訓歌番附	一五六	三の字冠事物番附	二一七
新古家庭心得番附	一五七	五の字冠事物番附	二二二
全國著名觀楓名所番附	一六二	七の字冠事物番附	二二三
全國著名觀櫻名所番附	一六三	山と歴史人物番附	二三八
娘見立都々逸番附	一六八	徳川時代城番附	二三四
人物讀込山川番附	一七〇	人名冠詞事物女夫番附	二四〇
浮世つきづくし番附	一七四	諸國祭禮奇習番附	二四六
浮世種くらべ番附	一七五	昔語東海道名所名物番附	二四七
浮世見たいもの番附	一七六	十の字冠事物番附	二五六
古今噓八百番附	一七七	百の字冠事物番附	二五七
全國主要新聞創刊歴史番附	一九四	千の字冠事物番附	二六二
全國著名各宗寺院創建番附	一九六	萬の字冠事物番附	二六三
古今落語人名番附	一九八	蕉門高名俳人番附	二六八
花言葉番附	二〇一	武術諸流元祖番附	二七九
廻文言葉番附	二〇二	古人右衛門左衛門番附	二八〇
縁日商人使用符牒番附	二〇三		

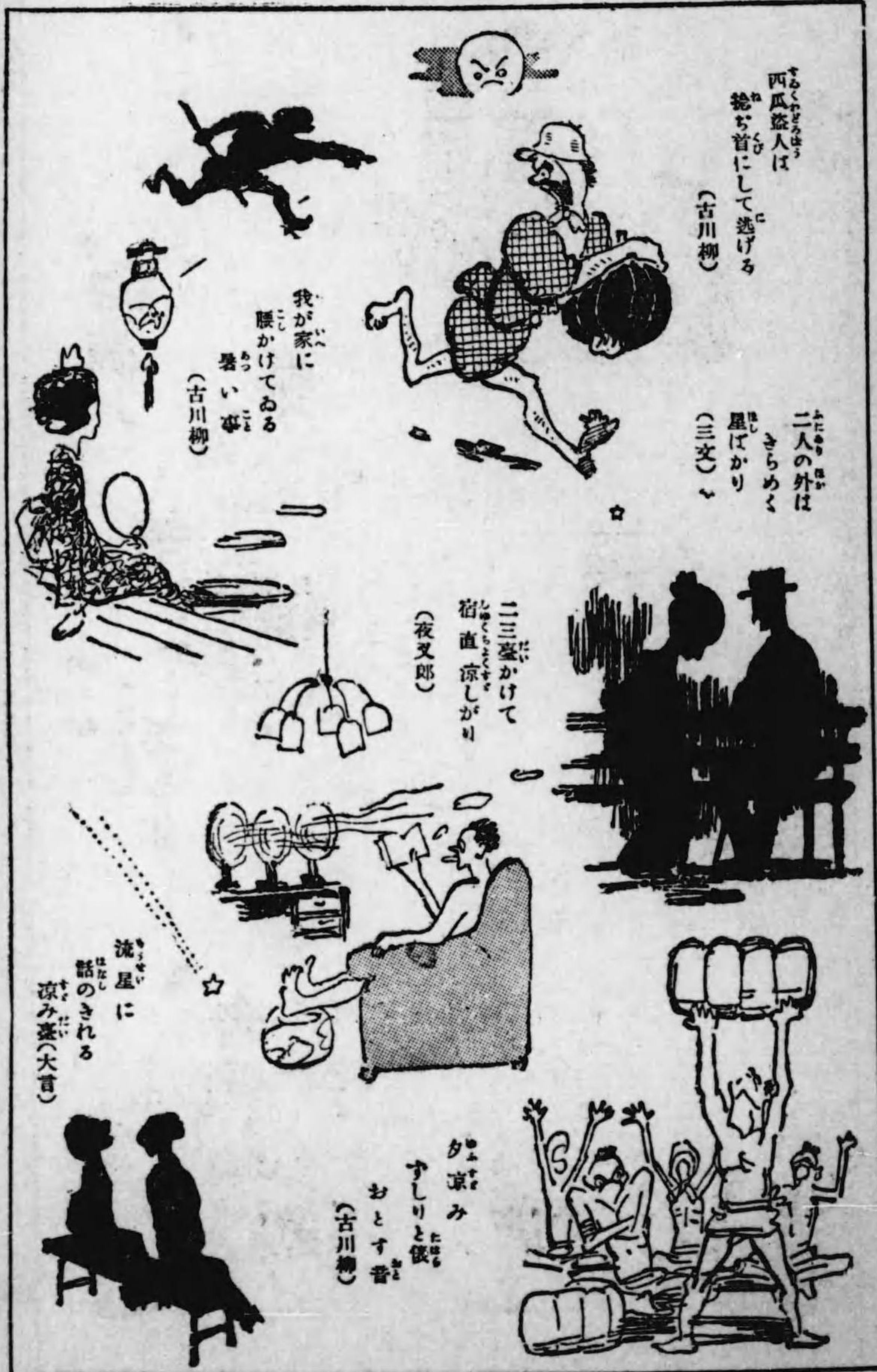


社會百面相

社會百面相









附番立見京東戸江

前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 關 大關	國團 技子 館坂 のの 菊菊	前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 關 大關	藥繩 似涼 水町 寫行 寺 社 奉 箱 簾 繪 船 屋 奴 繪 燈 行
同 同 同 同 同 同 同 前頭	刑牢 務屋 所敷	同 同 同 同 同 同 同 前頭	運自 飛公 寺同 與麻 用上 水 身脚 事小 上水
同 同 同 同 同 同 同 前頭	寄年 裁町 判奉 所行	同 同 同 同 同 同 同 前頭	仲若 合錦 草讀 雪矢 五 殿 双 節
同 同 同 同 同 同 同 前頭	首大 相老	同 同 同 同 同 同 同 前頭	駕雲 矢句 芝屋 猪頭 時 居 根 牙 の 茶 界 助 揚 袋 屋 船 船 巾 鐘
前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 關 大關	司行 國團 技子 館坂 のの 菊菊	前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 關 大關	藥繩 似涼 水町 寫行 寺 社 奉 箱 簾 繪 船 屋 奴 繪 燈 行
同 同 同 同 同 同 同 前頭	刑牢 務屋 所敷	同 同 同 同 同 同 同 前頭	運自 飛公 寺同 與麻 用上 水 身脚 事小 上水
同 同 同 同 同 同 同 前頭	寄年 裁町 判奉 所行	同 同 同 同 同 同 同 前頭	仲若 合錦 草讀 雪矢 五 殿 双 節
同 同 同 同 同 同 同 前頭	首大 相老	同 同 同 同 同 同 同 前頭	駕雲 矢句 芝屋 猪頭 時 居 根 牙 の 茶 界 助 揚 袋 屋 船 船 巾 鐘

附番名幼士名世近

前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 關 大關	司行 桂村 小五郎 木大 戶村 孝益 允二郎 周三 丸郎 岩島 倉津 具久 視光 締取 龜七 之郎 助磨 德德 川川 家慶 達喜	前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 關 大關	眞宗 望七 猪彌 吉八 俊八 之左衛門 助助助助助助 吾丞郎 門助助助助助 西川 西野 板大 西大 伊 郷上 園津 垣山 郷限 藤 從操 公鎮 退隆 重博 道六 望雄 助巖 盛信 文 彌嘉 助保 顯市 平麟 四 兵右 五彌 之太 太右 衛門助 助助助助助助助助助助 三黑 森後 田山 仁勝 伊 島田 藤中 田禮 東 通清 有二 光顯 景安 祐 庸綱 禮郎 顯義 範芳 亨
同 同 同 同 同 同 同 前頭	同 同 同 同 同 同 同 前頭	同 同 同 同 同 同 同 前頭	兵德 靖民 守與 壽楠 壽 之十三 衛門 助助助助助助助助助助 廣杉 野大 谷川 寺土 桂 澤孫 村木 村內 方 眞七 喬干 純正 久太 臣郎 靖任 城義 毅元 郎
同 同 同 同 同 同 同 前頭	同 同 同 同 同 同 同 前頭	同 同 同 同 同 同 同 前頭	格佐 藤精 榮幸 作軍 輝 之太 一 二 五 太 太 助助助助助助助助助助 大高 福岩 渡奈 中三 山 山崎 岡村 澤良 島好 內 綱正 幸高 榮信 重容 良風 弟俊 一繁 行臣 堂
同 同 同 同 同 同 同 前頭	同 同 同 同 同 同 同 前頭	同 同 同 同 同 同 同 前頭	冬幸 龍半 才長 平忠 廣 一右 衛門 七助 造允 七封 德吉 伊林 五稅 楠山 毛 原井 地代 所本 地利 國友 正友 友正 元元 幹實 治幸 厚篤 隆治 德

附 番 品 料 食

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關	
落柿	保蟹	荒	八	佃	鮑	燒	鳴	蜜	鎌	蕪	か	松	茶			
花	羊	命	卷	丁	粕	蒲	門	倉	千	ら						
				味			若	ハ	枚	す						
生	羹	酒	鮭	噌	煮	漬	銚	布	柑	み	茸					
(下總船橋)	(大後)	(備後)	(福井)	(北海)	(森)	(阿)	(紀伊)	(阿)	(紀伊)	(京)	(長)	(京)	(山)			
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭	
花	お	朝	松	鯉	燻	玉	西	鯛	木	鮒	越	桑	椎	磯	粟	五
多	鮮	鹽	製	子	の	の				部	お					家
福				餛	葉					煎	こ					
菘	豆	飴	風	辛	鮭	鈍	瓜	花	鮓	雪	酒	茸	餅	し	寶	
(大)	(京)	(熊)	(岐)	(銚)	(北海)	(越)	(大)	(熊)	(紀)	(大)	(高)	(丹)	(大)	(上)	(大)	(熊)
阪	都	本	阜	子	道	後	和	本	伊	津	田	波	分	野	阪	谷
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭
姥	醬	細	氷	豆	水	筍	牡	長	干	梨	梅	こ	鯨	九	月	鐘
ケ	工						丹				ぼ					の
	昆	落					海	生			羊	れ				
餅	油	布	餅	雁	飴	老	殿	鮑	子	羹	梅	骨	重	零	詰	
(草)	(播磨龍野)	(大)	(信濃諏訪)	(福)	(浦)	(京)	(越)	(金)	(青)	(越後)	(水)	(攝津伊丹)	(土)	(仙)	(甲)	(廣)
津		阪		井	都	前	澤	森	月	佐	彦	佐	彦	府	島	

司味  
 酥  
 (下總流山)  
 鹽  
 (赤穂)  
 寄醬  
 油  
 (銚子野田)

産 名 要 主 國 全

行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關		
鑑	宮	日	泡	牡	五	櫻	鯛	時	山	興	松	菊	牛	奈	生	守	乾	
節	重	光																
(土)	蘿	羊		島	味	雨	葵	津	前					良	雲	口	海	
佐									昆									
	菊	羹	盛	蠣	鯛	桃	噌	蛤	漬	鯛	布	菊	肉	漬	丹	菊	苦	
	(名)	(日)	(沖)	(廣)	(長)	(山)	(仙)	(桑)	(靜)	(靜)	(北)	(甲)	(神)	(大)	(福)	(岐)	(東)	
	古	屋	光	經	島	崎	形	臺	名	岡	岡	道	沼	戸	阪	井	阜	京
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭
酢	野	吉	乾	の	漬	燒	寒	干	磯	干	鮓	加	あ	林	瓦	八	吉	
砂	菜				名						こ	須	ら				備	
	味	野			し						の						煎	團
	酥				納						の	庭	れ					
糖	漬	葛	酪	梅	豆	鮓	天	瓢	松	こ	鮓	羅	酒	橋	餅	橋	子	
(尾張牛田)	(名)	(大)	(北)	(山)	(濱)	(肥)	(丹)	(宇)	(北)	(丹)	(相)	(長)	(奈)	(青)	(神)	(京)	(岡)	
	古	和	海	道	形	松	後	波	宮	道	後	北	崎	良	森	戸	都	山
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭
年	み	小	水	水	鮓	茶	梅	慈	帆	蔭	干	枇	栗	う	鮓	三	白	
伊	す	魚	前												い	筋	輪	
丹	と	栗	寺	蜜											羊	ら	子	
酒	と	栗	海												う	粕	素	
(攝津灘)	鮓	漬	苦	桃	か	羹	干	姑	柱	漬	杏	杷	羹	餅	漬	麵	噌	
	(上)	(千)	(熊)	(岡)	(岐)	(靜)	(小)	(大)	(北)	(秋)	(長)	(安)	(下)	(名)	(北)	(大)	(京)	
	田	業	本	山	阜	岡	原	阪	吹	田	道	野	房	成	古	海	和	都



おくれ毛を  
くはへて膝の  
文を讀み(劍花坊)



字典など  
清少納言  
枕にし(劍花坊)



いろくな  
女の息を  
吸ふ鏡  
(しづ子)



ていれいに  
西瓜を喰ふと  
げびるなり  
(古川柳)



ながられた  
猫隔つこで  
頬を撫で(鯛坊)



帯を撫で  
鏡を見また  
帯を撫で  
(劍花坊)



オクレモを  
指(巻いたり  
脚(たり(劍花坊)



琴爪を  
つけたまんまで  
出迎へる(市)



好い女  
惚れたからうと  
云つた風(曙山)



髪結に  
一掃屋  
拜い所  
(古川柳)



煖手を  
閉んで人を  
讀るなり  
(映絲)



養生で  
白髪を染める  
とは云へず  
(扶鏡子)



考へて  
あると夜學は  
眠くなり  
(銀麟)

幼な氣になつて  
積木に興じたり  
(ひろ子)

頬だけの  
赤染衛門歌も  
詠めず(劍花坊)

女店員  
羊洋かんへ  
廻り道  
(○丸)

身じろぎもせず  
落葉の中で泣き(信子)



今様の  
和泉式部に  
昔まあり(劍花坊)

紫を真似て熱海へ  
書きに行き  
(劍花坊)

新聞  
良人の顔は  
小さく出る  
(劍花坊)

別々な  
心で同じ  
飯を喰ひ  
(信子)

飛んで行く  
雲の力に  
追付かず  
(信子)



初対面  
どつちもうそな  
ついてゐる  
(三太郎)

隠してる  
のに看護婦は  
盛り立てる  
(三重次)

一人づつ  
立たせて針を  
見つけたら  
(吐陀郎)

めんどりが  
すいめて酒屋  
ひまになり  
(劍花坊)

許らぬ姿で女  
眠るなり  
(花戀坊)

賢草の  
母のかたみに  
涙ぐみ(古川柳)



桂庵の  
二階から見る  
屋根の歌  
(春雨)

畜生と  
いはれる程の  
うつくしさ  
(劍花坊)

振袖も  
海老茶し  
似合ふ  
十五六(劍花坊)

うしろの子  
猫へ廻すが  
守上手(古川柳)

光る手を  
兎角女は  
上(置き  
(夜果守)

おかんぼの  
ひとみにもまた  
母の顔(劍花坊)



ほれんど  
する日のあつた  
鏡なり(豆坊)



女客  
亭主は店へ  
追ひ出され  
(古川柳)



細君が  
異人で腕へ  
ぶらさかり(剣花坊)



襟にアゴ  
理めて火種  
並せてゐる



ラシヤメンに  
たうとうなつた  
大女(義博)



叱られた  
通りに母は  
叱るなり  
(古川柳)



袖のあそ  
着物を着ても  
ちりれつ毛(剣花坊)



なつてない  
姿で仲居  
拭き掃除  
(佳鳴)



世評など耳には  
入れず耳かくし  
(剣花坊)



顔は美くしいが  
面は憎い  
なり  
(古川柳)

いゝ服で  
来た新内の  
眼が一つ  
(維想楼)



めすと猫  
箒の下な  
かいくゞり  
(都良公)





慰籍料を  
とつて孤獨を  
淋しがり(春雨)

ハイカラの  
手にも胸にも  
税をかけ(剣花坊)



水道の  
側に丸  
耳隠し  
(剣花坊)



抽斗へ何か  
言つて  
探しもの  
(打流喜)



女房を  
音楽會へ  
飾り立て  
(剣花坊)



玉乗りの乳房を包む  
肉糞(糞想樓)



教師より  
高いのもある  
裁縫科  
(叱咤郎)



運根は  
こらな折れと  
生れ付き  
(古川柳)



帯を買ふ  
逆に溜めたい  
貯金玉(凡笑)



人形に  
話しをしてる  
遊戯生(小次郎)



金髪へ  
振袖を着て  
晒しがり(剣花坊)



肉體美  
今圓盤を  
投げんとす  
(月歌)









附番子と親柳川・句俳

前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 開臨 大開  
 母行孝棒瓜子あ今  
 親水は程でのつ更  
 はは無の火寝き  
 息親で事を冷思石  
 子父不針點壺息に  
 の息孝ほす日子蒲  
 嘘子はど後夫は圓  
 をは嘯にか婦裸も  
 足湯る母ら嘘に着  
 し水親か息嘩成せ  
 やりのば消な知れ  
 りり脛ひしりりす

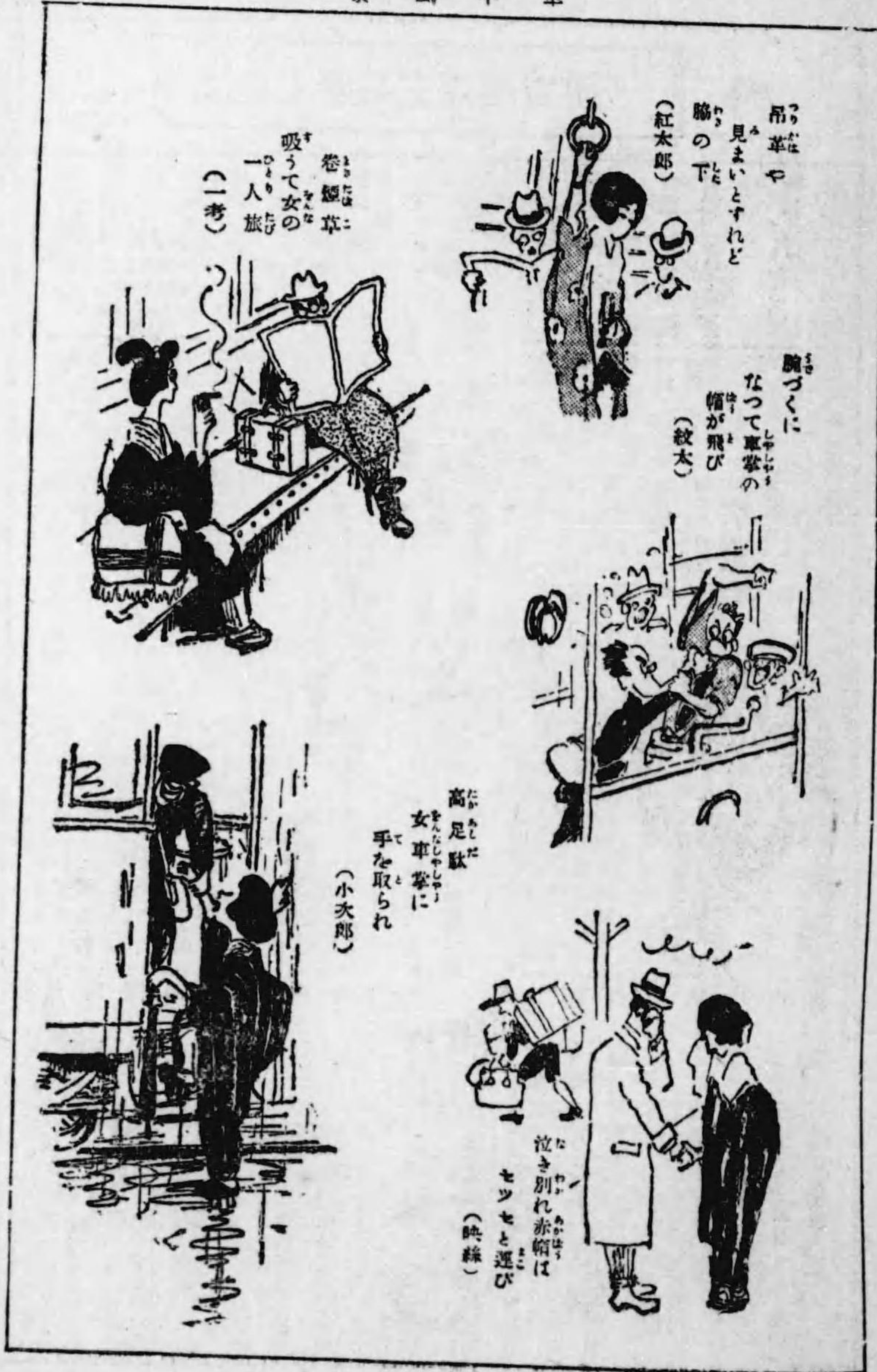
行子を持つて始めて知るや親の恩  
 司智慧のある馬鹿に親父も困り果

前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 小結 開臨 大開  
 秋破去早よ別親孝  
 風る年乙くれもし  
 や子ま女寝て子た  
 障ので子れももき  
 子な叱のば聞泣身  
 にくつ泣寝にくに  
 細てたくと來やは  
 き障瓜方てて霜親  
 指子のを植観泣夜な  
 のの手てくくのし  
 あ寒向行枕帳乳魂  
 と哉哉く蠅哉貫祭

同同同同同同同前頭  
 拾お盗葉巻親親雷  
 はこる人を行が脛思真  
 る氣を捕へ子替今齒似  
 聞笑つて母ははつとから嘯しめ  
 り仕舞ふ子煩け  
 親は手を合せ

寄年 寄馬の耳蛙の面に母困り

同同同同同同同前頭  
 寝産子雪井轉旅叱  
 てんのの戸寝歸ら  
 居だ親の日端もり  
 ても子のや子をり  
 團へ手笠孝者の行の  
 扇ら厭めくの夢や寒  
 の動やぬ時身を母さ  
 く親雨か案の汗な  
 親の思えな







子の髪顔  
覗いて亭主  
服を脱ぎ  
(よし丸)

泣きさうな  
顔をあやして  
叩かれる  
(佐保蘭)

赤足袋を  
穿して夫  
婿草臥れる  
(逸名氏)

肩車  
親爺何に  
も見えぬ  
なり  
(二の町)

拭いてやる涙  
ついでに鼻をかき  
不倒人

子供から  
やりこめられて  
嬉しがり  
(道樂)



泣く聲に  
洗濯の  
手を  
拭いて来る  
(安千邦)

父さんが  
手を出して待つ  
子の巻  
(逸名氏)

女親  
柱を打つて  
痛を撫で  
(阿彌丸)

男湯へ餘ッ程  
子煩悩と見え  
(冬眠子)

晩酌の肴  
大方子に  
喰はれ  
(草樂子)

竹馬へ羽織  
を持って  
追つかける  
(すゝ丸)





物變讀番附

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關	
手	流	矮	七	行	葛	香	五	草	海	主	長	雪	帷	梅	黃
												具	花	司破	
遊	連	雞	夕	燈	籠	師	月	臥	月	計	刀	菜	子	雨	昏
お	い	ち	た	あ	つ	や	さ	く	く	か	な	き	か	つ	た
も	つ	や	な	ん			つ	た	ら	す	ぎ	ら	た	そ	が
ち	や	ば	ど				ら	し	き	れ	け	へ	た	す	ら
や	け	ほ	た	う	ら	し	き	れ	け	へ	た	す	ら	ゆ	れ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭
松	脛	煙	主	囀	海	漏	山	胞	雪	南	乾	村	太	花	嶋
												斗	筋		
明	草	稅	子	鼠	斗	羊	衣	洞	風	兒	雨	刀	車	牛	
た	な	た	ち	は	な	じ	や	え	ほ	は	こ	む	た	や	か
い	ま	ば	か	や	ま	う		ん	ほ		ぶ	ら	り	か	た
つ	す	こ	ら	し	こ	ご	ぎ	なり	へ	ん	め	ち	て	り	む
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭
額	胡	行	許	情	流	流	直	五	欠	鯨	浮	菊	四	華	舍
												寄案	山		
額	坐	子	嫁	夫	石	馬	衣	繩	伸	波	雲	石	阿	客	人
こ	あ	よ	い	ま	さ	や	な	う	あ	と	あ	あ	あ	と	と
め	ぐ	し	ひ	ま	さ	ぶ	ほ	る	く	きの	ぶ	ば	つ	く	ね
か	ら	き	な	す	さ	め	し	い	び	こ	な	ま	く	ね	り
み	ら	り	げ	ぶ	が	め	し	い	び	こ	な	ま	く	ね	り

常用品漢字

行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關	
沒	獨	注	軍	彌	行	旅	美	如	草	海	主	竹	鹿	浴	五	東
分													人	角	月	
曉	樂	連	雞	生	火	籠	局	月	鞋	苦	水	刀	菜	衣	雨	雲
漢	こ	し	し	や	あ	は	つ	き	わ	の	も	し	ひ	ゆ	さ	し
(わか			や	よ	ん	た	も	た	ら		ん	な	じ	か	み	の
らす	ま	め	も	ひ	か	ご	せ	ぎ	じ	り	ど	ひ	き	た	れ	め
や)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭
陽	十	下	煙	帶	神	鳥	炭	木	母	雪	東	白	時	ヒ	山	百
													六			
炎	夜	物	管	刀	樂	賊	斗	兎	衣	崩	風	徒	雨	首	車	足
(かけ	い	さ	き	た	か	い	す	み	ほ	な	こ	し	し	あ	だ	む
ら	ざ	か	せ	て	ぐ		み	と	づ	だ		れ	ぐ	ひ	か	
ふ)	よ	な	る	き	ら	か	り	く	ろ	れ	ち	の	れ	ち	し	で
年月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前頭
下	石	月	華	心	天	只	足	赤	雲	有	叩	師	乃	飛	白	局
氷													夫			
人	女	代	魁	太	晴	管	袋	心	雀	森	頭	走	公	白	粉	
(なか	う	さ	お	と	あ	ひ	た	ま	ひ	ま	お	し	お	か	お	つ
かう	ま	か	い	こ	ろ	て	ば	す	ら	ば	と	じ	は	す	ろ	ほ
ど)	づ	や	ら	ん	ん	れ	ら	ら	ら	ら	り	こ	ぎ	す	れ	り
	め	き	ん	ん	れ	ら	ら	ら	ら	り	こ	ぎ	す	れ	り	い



附番訓難字漢菜野

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關	司行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關
薯	蕒	葱	甜	南	菠	甘	胡	百	茄	青	款	獨	胡	西	甘	馬	蕪
																	鈴
預	苜	頭	瓜	瓜	草	蔞	荷	合	子	芋	冬	活	瓜	瓜	藍	薯	荷
(ヤ)	(マ)	(タ)	(カ)	(カ)	(ホ)	(サ)	(ニ)	(コ)	(シ)	(サ)	(フ)	(ウ)	(キ)	(キ)	(キ)	(ジ)	(ダイ)
ま	の	し	ま	く	ぼ	れ	ん	い	な	と			う	る	く	べ	い
い	も	や	り	や	う	も	ん	り	す	も	き	ど	り	わ	つ	も	ん
同	同	同	同	同	同	同	前頭	蓮	笋	同	同	同	同	同	同	同	前頭
小	菘	零	甘	紫	蕪	大	絲	刀	薯	紫	胡	山	蕪	鶴	越		
豆	子	子	薇	菁	豆	瓜		根		豆	杏	蕪	桃	葵	豆	瓜	
(ア)	(タ)	(ム)	(カ)	(カ)	(サ)	(ヘ)		(は)	(たけのこ)	(な)	(つ)	(せ)	(く)	(ヒ)	(ら)	(ふ)	
づ	か	か	よ	ら	ぶ	ち		す		た	る	ん	る	さ	き	じ	
き	な	こ	ぎ	び	ら	げ	ま	寄年		め	ない	み	び	う	め	う	
同	同	同	同	同	同	同	前頭	生	葱	同	同	同	同	同	同	同	前頭
高	公	菜	柏	豆	椒	葵	姑	水	土	塘	薯	蕪	蕪	玉	牛		
萬	公	菜	柏	豆	椒	葵	姑	薑		芹	筆	萬	茄	豆	荷	黎	莠
(シ)	(タ)	(オ)	(マ)	(イ)	(ト)	(ミ)	(ク)	(し)	(ね)	(セ)	(つ)	(お)	(と)	(そ)	(め)	(た)	(こ)
ゆ	ん	だ	つ	ん	う	つ	わ	り	ぎ	く		ら	ま	ら	う	も	ろ
ん	ご	せ	ら	ん	ら	ら	あ			り	し	だ	ま	ま	が	こ	う

附番訓難字漢物植

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關	司行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關
辛	向	雁	覆	紫	無	鬼	杜	萬	霸	桑	女	纓	百	蒲	合	虎	虎
							酸	年	王	郎	斗	公				耳	漿
日	來	盆	雲	花		灯	若	青	樹	吾	花	菜	合	英	歡	杖	草
(コ)	(ヒ)	(ハ)	(イ)	(レ)	(イ)	(ホ)	(カ)	(オ)	(サ)	(ツ)	(チ)	(ユ)	(メ)	(イ)	(エ)	(カ)	(カ)
ア	マ	ケ	チ	ゲ	チ	ホ	キ	モ	ホ	ハ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ
シ	リ	ウ	ゴ	ク	ク	ク	ク	ト	ン	ア	シ	キ	リ	ム	リ	タ	ミ
同	同	同	同	同	同	同	前頭	溪	公	同	同	同	同	同	同	同	前頭
息	含	零	海	車	櫻	木	楊	孫	王	根	白	絲	天	牽	菜	接	山
							加	孫	孫	殼	麻	瓜	蔘	花	莢	木	子
莢	草	子	砂	草	桃	通	梅	(ハ)	(イ)	(カ)	(イ)	(ハ)	(マ)	(ア)	(ク)	(ニ)	(ク)
(サ)	(オ)	(ム)	(カ)	(オ)	(ユ)	(ア)	(マ)	(ナ)	(フ)	(ラ)	(チ)	(チ)	(タ)	(ガ)	(ト)	(ナ)	(ザ)
イ	シ	カ	カ	カ	カ	カ	モ	チ	メ	タ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ
カ	サ	ウ	ゴ	サ	ラ	ビ	ギ	寄年		同	同	同	同	同	同	同	前頭
同	同	同	同	同	同	同	前頭	煙	草	楨	鬼	令	旋	蕪	乳	馬	莞
木	紫	落	石	莫	麥	草	白	草	草	櫃	目	治	花	菜	柑	木	子
							決	(タ)	(バ)	(ク)	(ホ)	(ハ)	(チ)	(シ)	(フ)	(ネ)	(ツ)
藥			告	門	石	屈	明	子	芽	(ロ)	(シ)	(メ)	(ウ)	(ヤ)	(シ)	(ホ)	(ナ)
子	羅	葵	草	滿	冬	蠶	菜			(ワ)	(チ)	(パ)	(リ)	(キ)	(コ)	(シ)	(キ)
(ム)	(イ)	(ツ)	(ヒ)	(ナ)	(ヤ)	(チ)	(エ)			(ク)	(ホ)	(ハ)	(チ)	(シ)	(フ)	(ネ)	(ツ)
ク	チ	ム	ト	ノ	ア	ヨ	ビス			(ワ)	(チ)	(パ)	(リ)	(キ)	(コ)	(シ)	(キ)
ク	ハ	ム	ツ	サ	ラ	シ	ク			(ワ)	(チ)	(パ)	(リ)	(キ)	(コ)	(シ)	(キ)





筆賣の  
威は口で  
書いて  
見せ  
(旅雨)

大道で  
演説済むと  
薬賣り  
(神路)

浪花餅を  
叩けば十餘年  
(天津)

口ばかり暗くも叩く  
下手按摩  
(古川柳)

今日抜い  
て明日  
斬り合ふ  
講釋師  
(重次郎)

鹿枝  
鼻で受けてる  
血通し  
(鹿枝)



順風になつて  
船頭飯にする  
(岷人)

腰の皮  
つまんで床屋  
斜にかまへ  
(華川)

辭令より  
先に新聞  
記者が来る  
(桂華)

(古川柳)

警官もしばし  
日蔭へ逃れ  
たり  
(三太郎)

氷屋は  
鼻につかへる  
程に盛り  
(一柳)

(一柳)





四五人で  
立てば圓タケ  
寄つて来る  
(巨頭子)



貧乏に  
けしかけられて  
強く活き  
(叱咤郎)

空車乘  
るかと思ふ  
道を閉々(五鐘)



傳道師  
聲が足らぬと  
手を振り  
(蝶三郎)



失戀の酒とは  
知らず  
女給つき  
(美一郎)

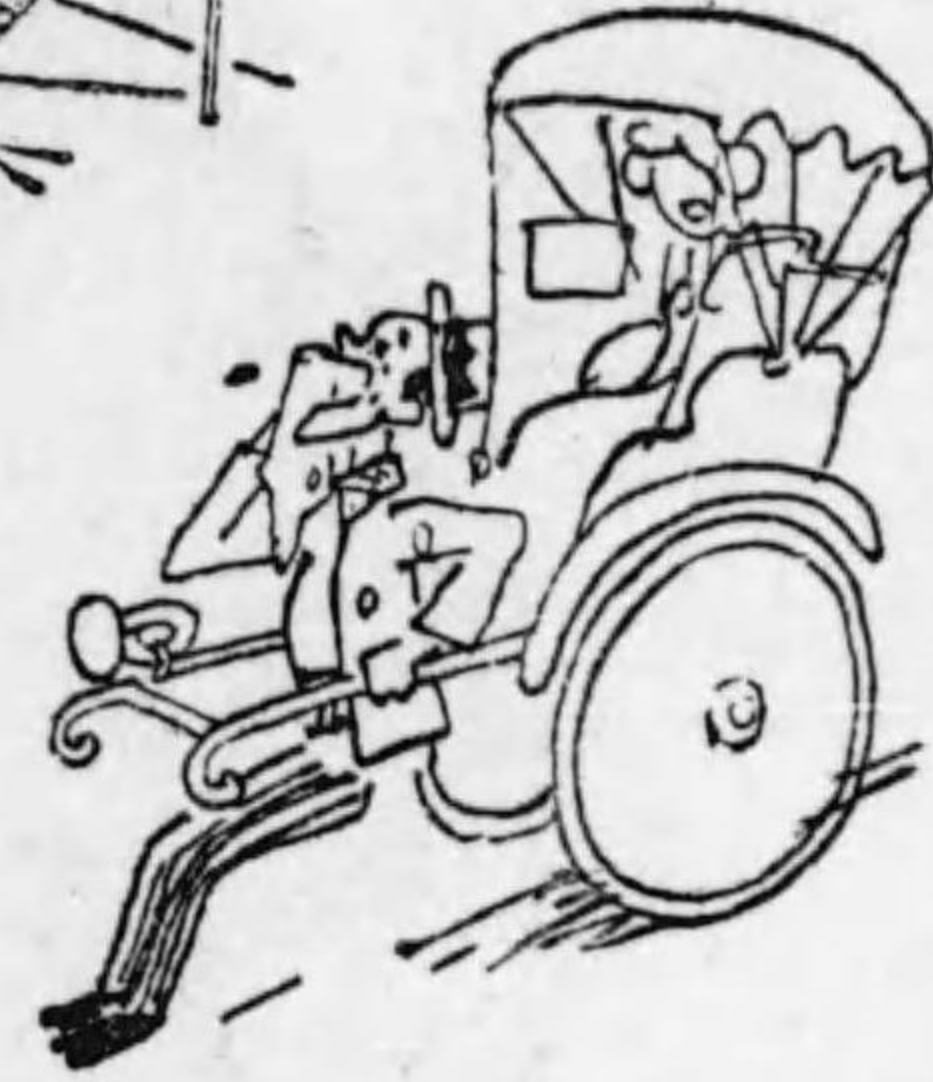


ラブシ  
ンが済  
むと身投の  
ロケーション  
(秋無草)



下り坂  
それも偉夫  
愚痴の中  
(三太郎)

エキストラ  
斬られた振りな  
ほめられる  
(幸魚)



猛歌  
の株に  
銀行機に住み  
(黙然人)



手のひらへ  
底豆を出す  
角兵衛獅子  
(古川柳)



笑ひ止む  
までは高座で  
汗を拭き  
(古川柳)



エプロンの  
望みは映畫  
女優なり  
(鞍馬)



首筋に  
なると  
按摩は  
はなしかけ  
(刀三)



講釋師天下  
分目の聲を上げ  
(勝三)



酔どれへ  
圓タクの助手  
降りて来る  
(はるを)



炭團屋は  
春中の蛋に  
人を呼び  
(七郎)



鏡臺を  
並べて二人  
敵意あり  
(五健)



喝采の中に  
高座は飲んで  
置き  
(琴月)



裏町へ来てチンドン  
は素通りし  
(龜次)



火事最中  
憎まれ役の  
寫眞班  
(油産生)



これとりは  
腰の痒いを  
してあまし  
(古川柳)



聲のした方を  
按摩は耳で  
見る  
(天蓬坊)



金持になると受合ふ  
八卦位  
(古川柳)



氣の毒な  
程掛合は  
叩かれる  
(進手)



先生といはるよ  
按摩靴を穿き  
(鞍馬)



(錦浪)

眞つ直ぐの  
路を教へる  
臆を出し

附番諺俚ントコホ

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開	司行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
陰	入	十	馬	驚	同	覆	思	子	弱	得	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
徳	を	で	子	が	性	水	ひ	は	り	手	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
あ	見	神	に	鷹	相	盆	立	三	目	に	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
れ	たら	童	に	鷹	相	盆	立	三	に	帆	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
ば	泥	十	五	も	を	反	へ	が	祟	を	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
陽	報	と	あ	思	衣	生	ら	吉	り	あ	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
報	と	あ	思	衣	生	ら	吉	か	目	げ	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
り	へ	子	裳	む	す	す	日	せ	提	破	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	灯	鍋	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	に	と	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	つ	ぢ	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	鐘	蓋	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	寄	年	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	芋	目	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	の	衰	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	た	も	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	御	存	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	知	ない	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	餅		前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開

附番合呂語諺俚

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開	司行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
串	杏	無	袖	蠶	義	午	意		怪	臭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
談	よ	い	引	に	理	砲	地		い	物	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
か	り	事	合	桑	積	よ	の		者	には	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
ら	梅	座	ふ	食	れ	り	上		には	蓋	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
暇	が	頭	も	多	さ	正	も		油	断	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
が	安	に	語	れ	は	午	念		す	な	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
出	る	い	ぬ	變	う	午	念		農	糠	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		家	に	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		に		前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		米	釘	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		寄	年	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		妙	京	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		な	夢	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		嫁	大	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		馬	鹿	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		な	夢	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開
同	同	同	同	同	同	同	同		嫁		前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開	大開







附番齡年木樹

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關	司行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關
柏	唐	松	松	松	松	松	松	松	規	松	松	松	松	松	松	松	松	松
四〇〇	四〇〇	四〇〇	五〇〇	三〇〇	七〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	四〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	三〇〇	七〇〇	八〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
五〇〇	五〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	八〇〇	九〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇
三	二	三	三	二	五	四	二	三	二〇	二	四	二	四	五	三	六	五	五
三	三	三	三	三	三	三	三	三	二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一五	二〇	二五	三〇	一〇	二五	一〇	一〇	二〇	一六〇〇	一五	一三	二〇	二五	一〇	三〇	三〇	二五	二五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	一六〇〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同
梅	柳	松	松	松	松	松	松	松	五	秋	針	桑	楓	柳	松	松	松	松
三〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	六〇〇	四〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	一二	三	三	三	三	三	四	四	四	四
一	二	二	二	三	二	四	三	二	二	二	一	二	四	二	三	四	二	四
三	三	三	三	三	三	六	六	四	二	四	八	八	六	二	三	四	二	四
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	〇	五	三	五	〇	三	三	五	六	三	〇	五	〇	五	三	五	七	三

役查檢  
林學博士 本多靜六

附番數命物動界世

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關	大關	司行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭
鷓鴣	鳩	獅	石	鷲	鴉	鴉	鴉	鴉	鶴	龜	馬	青	鯉	鴨	鴨	鴨	鴨	鴨
四〇年	四〇年	六〇年	七〇年	八〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	九〇年	一〇〇年	二五年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年
五〇年	五〇年	六〇年	七〇年	八〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	九〇年	一〇〇年	五〇年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年	六〇年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
狐	貓	金	鹿	豚	孔	犬	蛙	杜	白	鳥	雲	猿	犀	狼	牛	豹	虎	馬
一五	一三	二〇	二五	一〇	三〇	三〇	三〇	二五	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年	一〇〇年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	一〇〇年	一〇〇年	同	同	同	同	同	同	同	同
秋	針	桑	楓	柳	松	松	松	松	寄	年	一	一	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	四	四	四	四	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二
二	二	一	二	四	二	三	四	二	一〇〇年	一〇〇年	一	一	二	二	二	二	二	二
二	一	一	二	二	二	二	二	二	一〇〇年	一〇〇年	一	一	二	二	二	二	二	二
三	三	〇	五	〇	五	三	五	七	一	一	三	〇	五	〇	五	三	五	七



三輪車  
今度乗る子が  
後を押し  
(龍城)

何か来て  
喚ぶか佛壇  
菓子が減り  
(逸名氏)



さやうなら  
母はあたまを  
押へつけ  
(蒲盛)



竹馬で  
来るとゴスト  
が低過ぎる  
(二〇坊)



大きいこと  
猫のぼけね  
菓子の壺  
(古川柳)



縮しがり  
産敷を歩く  
紅緒下駄  
(星堂)



にげ腹で  
肥の喧嘩は  
女の子  
(桂華)



しやつくりを  
抜刀で止めて  
叱られる  
(古川柳)



上機嫌  
孫に教はる  
一ツとや  
(松男)



剣戟の  
相手を下女は  
ハタキでし  
(珠子)



朝寝坊  
いつも終ひに  
子が起し  
(錦派)



コソソと  
喰べた  
牡丹餅  
引ツかり(さか)







ひどい酔  
うめが顔を  
眺めてる  
(古川柳)



爪を切る  
顔はよつほど  
歪にし(夜叉郎)



重役の  
視線と欠伸  
ぶつかり  
(鹿の子)



見臺へ  
泣いて喚れろと  
口を曲げ(錦浪)



うねほれを  
やめれば外に  
惚れ人なし



まとまりかけた  
ところへ  
阿父さん御飯  
(劍花坊)



吸入器  
噛みつき  
さうな  
委なり  
(春雨)



歯醫者では  
はづかしくない  
口をあけ(映絲)



絶しさの  
限りきたない  
歯が見える  
(花戀坊)



水道へ  
斜に口を  
持つて行き(水鏡子)



鼻毛ゆき  
かたくつかんで  
馬鹿な面  
(古川柳)



手拭を  
絞るに女  
口を曲げ  
(家路郎)



あとのくまめを  
待つて居る  
へんなつら  
(古川柳)













おしろいの  
溶けて流る、  
夏祭(剣花坊)

首のない  
羽織が走る  
銭か雨  
(古川柳)

傘貸して  
降り罩められる  
獨り者(古川柳)

雨宿り  
ごおんと撞いて  
叱られる  
(古川柳)

泥中の  
蓮のやうに  
立ちすくみ  
(古川柳)

張りものを  
生取りにする  
餓雨(古川柳)



青眼に  
構へてはいる  
路次の傘  
(古川柳)

湯の節り  
相合傘の  
後をつけ  
(古川柳)

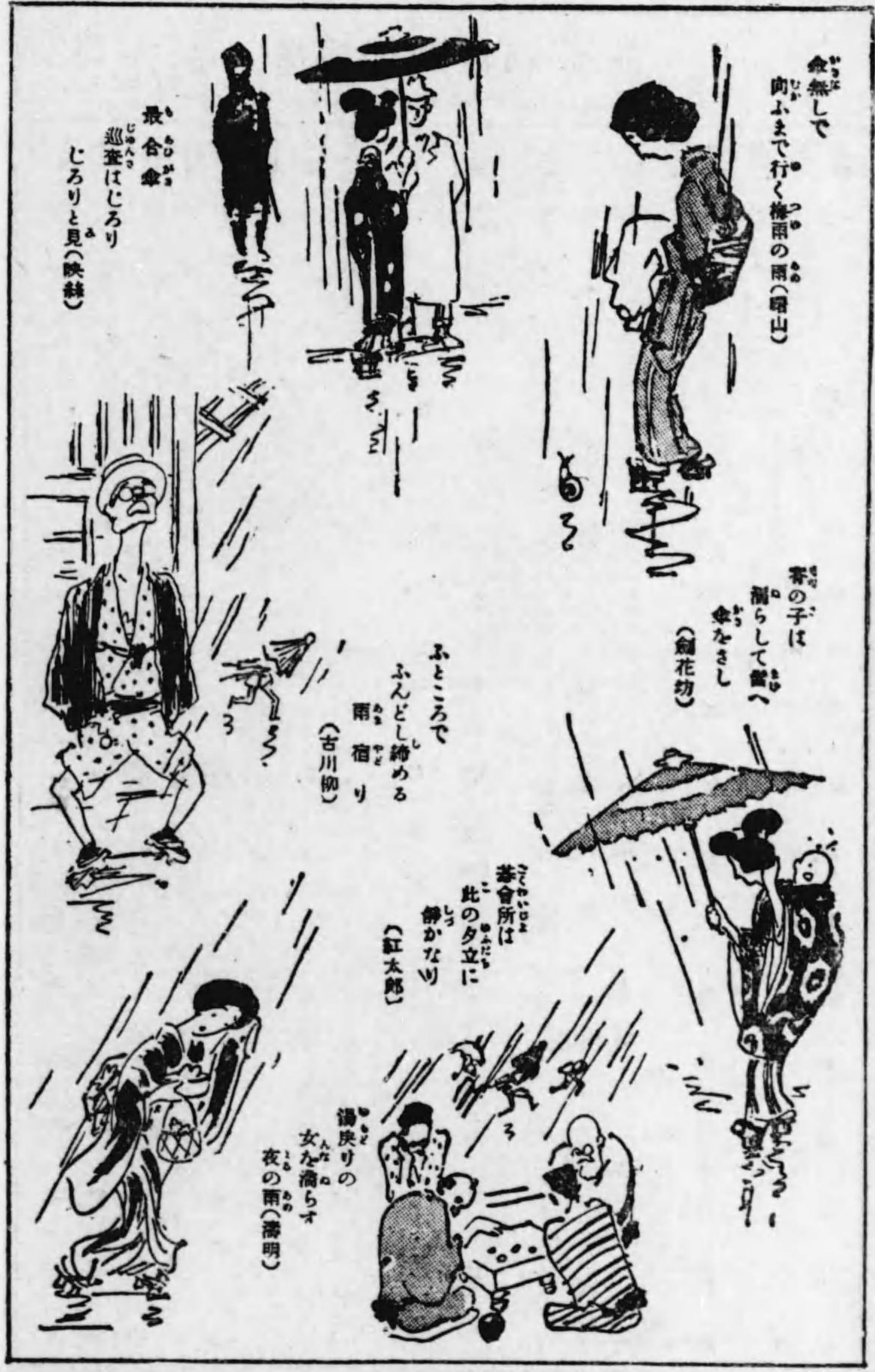
相違目  
顔の見えない  
うちがよし

本降りになつて  
駆け出す雨宿り(古川柳)

餓か雨添乳に亭主  
つかはれる(古川柳)

附番詞落洒指棋將

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關	司	行	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關
成	王	香	歩	初	遣	金	桂	負	王	金	二	入	歩	桂	王	三	香
つ	手	成	は	王	ひ	角	外	け	嬉	銀	丁	り	の	馬	手	別	車
て	は	り	名	三	手	果	香	て	し	積	換	な	い	高	れ	あ	手
嬉	日	と	が	眼	し	て	は	口	や	ん	な	八	將	上	が	れ	か
し	野	け	い	の	二	唐	角	惜	し	で	歩	と	百	り	け	ど	ら
や	の	て	の	く	歩	の	の	し	や	山	と	十	は	歩	り	詰	水
歩	満	金	首	す	残	の	も	玉	手	の	も	三	負	の	や	漏	
成	願	成	つ	す	り	と	と	箱	ら	如	す	年	棋	食	い	し	
金	寺	る	柳	る	鶏					し	る						
同	同	同	同	同	同	同	前頭	寄	年	同	同	同	同	同	同	前頭	
將	拊	お	王	お	香	相	桂	飛	角	一	負	成	取	手	銀	香	金
棋	つ	手	手	逃	車	飛	香	車	成	手	け	つ	の	光	車	金	く
は	悪	飛	擱	の	萬	互	元	取	果	お	た	て	な	の	の	出	し
早	い	車	手	蒲	よ	の	年	手	つ	く	小	程	取	い	家	夢	頭
馬	は	歩	六	焼	り	胸	丙	は	理	れ	西	光	ら	時	來	王	仕
の	親	が	萬	ど	貧	者	に	詰	の	て	は	る	ぬ	端	又	様	ま
如	父	い	金	ぜ	の	の	あ	み	當	先	氣	稻	將	の	負	の	つ
し	頭	い	騎	汗	燈	る	よ	よ	然	手	が	關	光	棋	の	の	つ
								恐		後	ケ	原	り	駒	け	綱	夢



大關 さすると肥るものは、  
 按摩の懐中。  
 關脇 人目を忍んで何をする。  
 立小便。  
 小結 何故人形は腹でなくか。  
 顔で笑つて居るから。  
 前頭 猫が歩けば何に當る。  
 御祝儀に  
 前頭 木佛金佛何方が有難い。  
 潰しが利くから金佛。  
 前頭 たまらない程良ものは、  
 借金。  
 前頭 邪魔が何處へ入る。  
 炬燵へ。  
 前頭 親同士で何故夫婦か。  
 子同士で夫婦だから。  
 同 火の子は誰が生んだか。  
 前頭 ボヤの親。  
 同 女の懐中手は何を握る。  
 虎の子。  
 同 落行く先は何處。  
 奈落から樂屋へ。  
 同 戀の道幅は何間あるか。  
 道行の舞臺ほど。  
 同 五つ二つは七つか十か。  
 違ふ時は七つ貰ふ時は十。  
 前頭 身投する時何故下駄を脱ぐか。  
 先を急ぐから。  
 同 泣く子に乳、泣く親には、  
 お金。  
 同 民草とは何んな草か。  
 大和撫子。  
 同 正月は来るものか行くものか。  
 子供は此方から行き大人は先方から  
 敵手に取つて何が不足か。  
 同 耳の遠いのが。  
 同 白河夜船に何を積む。  
 旅の疲勞。  
 同 客を釣るに何んな針を用ひる。  
 同 針。  
 同 人すれして何が減つたか。  
 國訛。  
 同 盲目は驚いた時何を廻すか。  
 杖をふり廻す。  
 同 死んでも云はない事は何か。  
 生て居ても云はない事。  
 同 思慮を廻らせば何處へ行く。  
 途中から我家へ戻る。

行 ○○は勝星か。

柔かで堅いものは。

年 來ぬ人は何時來るか。

大關 一服した前に何をした。  
 三遍廻つた。  
 關脇 思ひの丈は何尺か。  
 文にかく長さだけ。  
 小結 一席何を伺つたか。  
 御機嫌。  
 前頭 何處から脚が出たか。  
 夜具の裾から。  
 前頭 魂を何處で入替る。  
 親の前で。  
 前頭 身の振方は何うする。  
 鞆纏をすべし。  
 前頭 泣かぬ涙を問ふ。  
 嬉し涙。  
 前頭 運を天に任せられるか。  
 飛行機墜落の時。  
 同 切られるから。  
 前頭 菊は何故震へて居る。  
 氷の刃は何故溶けぬ。  
 夏尚ほ寒きゆゑ。  
 同 心を誰に奪はれた。  
 女に。  
 同 女優と女俳優と何う違ふ。  
 跳ると踊るとの違ひ。  
 同 人間の顔は幾種あるか。  
 美醜。  
 同 黙つて喋れるか。  
 目が物を云ふ。  
 同 早くつて長いものは。  
 汽車。  
 同 折られた鼻を何うしてつぐ。  
 修業して。  
 同 好いやうにされて何故悪い。  
 家を外にするから。  
 同 絶望の淵に沈んで助かるか。  
 浮む瀬があり。  
 同 手落とは廢兵のことか。  
 玩具具の人の形。  
 同 七つ過には何處へ行かねばならぬか。  
 小學校へ。  
 同 其の日に還はれて何處へ逃る。  
 翌日へ。  
 同 チャン／＼バラ／＼とは革命戦か。  
 ほごした袖なし。  
 同 關の山の高さは何程か。  
 身丈一杯。  
 同 六日の菖蒲は伊勢屋が暮くか。  
 塵芥屋が運ぶ。

司 其筋の目玉。

貞女の肌。

寄 盆の十三日。



屁を放つた  
ので其人の  
居たが知れ  
(剣花坊)



前足の  
屁で後足は  
極難儀(古川柳)



夕刊を  
見たまゝ眠る  
一人者  
(破庵杖)



腹のへる  
までは起きない  
日曜日(維想樓)



無遠慮に  
女唐電車で  
脚を組み  
(小次郎)



新聞へ  
鼻毛を植えて  
物思ひ(林鐘子)



姑は  
咳と一しよに  
一ツひり  
(古川柳)



香し香し  
空へおけてく  
田植の屁  
(古川柳)



汝等は  
何を笑ふと  
隠居の屁  
(古川柳)



鬼灯の  
音と難儀  
屁をかかし  
(古川柳)



大きなのを  
放つて師家の  
門を出る  
(古川柳)



大開 角力にや負も怪我さへなけりや  
 開關 石の地藏さんはお荷さんが  
 小結 向ふ横町のお稻荷さんへ  
 前頭 わたしや鶴主は梅  
 前頭 鐘に怨みは数々御座る  
 前頭 伊勢へ七度熊野へ三度  
 前頭 雪はチラく向ふ嵐  
 前頭 猫ぢや猫ぢやとおしやますが  
 前頭 雨の降る日は天氣がわるい  
 前頭 向ふ通るは清十郎ぢやないか  
 前頭 兄貴は二階で木遣の稽古  
 前頭 ほんに遺瀨がないわいな  
 前頭 瓜や茄子の花盛り  
 前頭 峰に雲置く嵐  
 前頭 駒が勇めば花が散る  
 前頭 帆かけた舟が見ゆるぞ  
 前頭 月に風情を待乳山へ

松は男の立姿  
 富士の白雪や朝日でとける  
 大高源吾は橋の上  
 沖の暗いのに白帆が見える  
 櫻の花かやチリくぬ  
 我身一つがまなならぬ  
 花が笑へば柳がまねく  
 臍に霞む春の夜の  
 琉球は石原小石原  
 濱の松風音ばかり  
 飛んでゆきたい主の傍  
 沖の鷗に汐時間へば  
 寺のは山谷で七つ過ぎ  
 夏のは涼みは兩國の  
 更けの行く鐘に雁の聲  
 駒形あたりき置炬燵

浪の花散る大洗  
 花のお江戸のまん中で  
 別れが辛い泣いたぢやないか  
 姉は二十一妹は二十歳  
 雪に思ひを深草の  
 火の用心さつしやりませう  
 枕二人の敷ならぶ  
 梅は咲いたが櫻はまだか  
 鳴かぬ蟬が身をこがす  
 知れりや互の身のつまり  
 丸い卵も切り様で四角  
 離れ座敷の夕まぐれ  
 磯で名所は大洗様よ  
 駕籠で行くのはお軽ぢやないか  
 松が見えますほのく  
 鶯宿梅ぢやないかいな  
 山で赤いのが鵜飼に椿

行一富士二鷹三茄子

いざ見にごんせ東山

大寒小寒山から小僧が泣いて来た

大開 苦勞を瘦せても手鍋を提げりや  
 開關 粹な自動車は赤坂通ひ  
 小結 不孝男も涙に懺悔  
 前頭 肌をや薄衣柄はつけ  
 前頭 派手な暮しが益々困る  
 前頭 綺麗花笠手古舞木遣  
 前頭 好きな芝居や相撲話し  
 前頭 風だ羽子だとお正月にや  
 前頭 明けを待つ身は年がながい  
 前頭 都合好いのは停留場が前だ  
 前頭 赤い寝巻に船底枕  
 前頭 門に貸家とあるかいな  
 前頭 文はあて字と假名ばかり  
 前頭 すねにきずもつ河内山  
 前頭 與三か切られた刀疵  
 前頭 焦がれた末が責ぐ後家  
 前頭 直きに邪推を廻す妻

咲くは此頃杜若  
 梅の三日月や柳でよける  
 長閑だ天幕に三味と笛  
 帯の黒いのに白地が榮える  
 寒さ肌までしみくと  
 帯に急ぐは山鴉  
 様が朝寝は私がさせる  
 鷗が浮く空帆上りや風だ  
 流行は意気からお人柄  
 ほろな夜具でも物は絹  
 呼んでいぢらし辻占屋  
 晴れる雲間に飛行機とべ  
 下手な按摩が流す辻  
 客を呼ぶには廣告よ  
 湯へくる前に理髪店へ  
 細かな緋弟着す  
 細帯か夏浴衣

紙の型切る大祓ひ  
 肩を揉めよと旦那風  
 博士はうまいよ内科ぢや大家  
 金は自由だし身元は堅し  
 月に今宵を更かす門  
 市の町敷八百八町  
 春や昔の春ならぬ  
 住めば上方東が我が家  
 生なお方と寝顔見る  
 注連や飾りを清く張り  
 安い鼻緒は一度でいたむ  
 まゝが足りないお蕎麥取れ  
 糸を巻のは大急ぎだからよ  
 敷の内には廢りはないか  
 那須へ行きますはるくと  
 大失敗ぢやあるまいか  
 食て辛いのが辛子と山葵

司七福ゆたか船遊び

いつでも御座れ閑な時

長松弱る小用が朝がた漏つて居た







現行保鳥番附

前頭 黒	前頭 小	前頭 夜	前頭 五	前頭 眼	小結 木	開關 野	大開 雨	司 鷗	行 鶴	前頭 虎	前頭 山	前頭 雲	前頭 四	前頭 眼	小結 泉	開關 駒	大開 燕
十	十	十	十	十	十	十	十	(つ)	(つ)	十	十	十	十	十	十	十	十
鷗 (くろつぐみ)	雀 (こがら)	鷹 (よたか)	雀 (ごじうから)	黒 (めぐろ)	兎 (みづく)	駒 (のこま)	燕 (あめつばめ)	(かもめ)	(つる)	鷗 (とらつぐみ)	雀 (やまがら)	雀 (ひばり)	雀 (しじうから)	白 (めじろ)	鳥 (ふくろ)	鳥 (こまどり)	鳥 (つばめ)
同	同	同	同	同	同	同	前頭 赤	啄 木鳥	鶴 木鳥	同	同	同	同	同	同	同	前頭 連
瑠璃	水	筒	岩	菊	木	赤	光	(しりくろ)	(きつゝき)	三	雷	椋	田	綱	赤	赤	連
鳥 (る)	鳥 (みつなぎ)	鳥 (つゝどり)	鷗 (いはひばり)	戴 (きくいたゞき)	走 (きばしり)	腹 (あかはら)	鶴 (せきれい)	雀 (れんじやく)	雀 (あかひげ)	鳥 (さんこうてう)	鳥 (らいてう)	鳥 (むくどり)	鷗 (たひばり)	鷗 (ひたき)	鷗 (かさまぎ)	雀 (あかひげ)	雀 (れんじやく)
同	同	同	同	同	同	同	前頭 海	寄 鶯	年 時鳥	同	同	同	同	同	同	同	前頭 日
蟲	朱	柄	善	鯨	行	麥	知	(うぐひす)	(ほごぎす)	雪	木	茅	磯	頰	籠	蔦	日
喰 (むしくひ)	鶯 (かはがらす)	長 (えなが)	鳥 (うと)	刺 (あぢさし)	子 (よしきり)	蔞 (むぎまき)	雀 (うみすゞめ)	雀 (うぐひす)	雀 (ほごぎす)	加 (せつか)	鷗 (きひばり)	潛 (かやひそみ)	鴨 (いそひどり)	白 (ほじろ)	鶯 (へらまき)	雀 (とがら)	雀 (うぐひす)





若夫婦  
御飯を喰ふに  
暇が入り

湯屋へだけ  
一緒に行け  
若夫婦(餘念坊)

ステツキな  
女が持つと  
けつまつき  
(維想楼)

運動と  
やらで食後の  
若夫婦  
(歌磨)

二人撮る  
寫眞に首を  
上げられる

若夫婦  
いたちこつこな  
見つけられ  
(蘭坊)



寫眞機  
向ふにアラツと  
逃げる影(春雨)

土に手を  
ついたど食に  
目もくれず  
(劍花坊)

い、暮し  
探で嫁が  
天下り  
(古川柳)

二三町  
出でから夫婦  
連れになり  
(古川柳)

連れ立って  
良人を良人  
らしく見せ  
(劍花坊)

ふるさとを  
忘れてあるく  
須磨明石  
(琴月)









行水の子供  
うどん  
つまみ上げ  
(葱柳)

譽められるたび  
持ち直す日傘  
(古川柳)

石船玉  
口を開かせる程上り  
(春花)

糊袋  
絞って見たい  
子かしゃがみ  
(雲谷)

編みかけな  
坊や  
ほどいて  
贈しがり  
(勝子)

のの線と月  
を覚える  
母の春  
(〇丸)



長い子  
思へば  
土管  
二人なり  
(助雄)

エプロン  
穀を受ける  
幼稚園  
へま々子

まぐれ犬  
水鉄砲に  
ねらはれる  
(きん坊)

どなられて  
俵の上の  
穴を見る  
(ひろし)

姉となる力  
乳母車が動き  
(紫助)







乞食の子

メンコ遊びに  
足を止め

(三日坊)

貧しさに  
笑ふ事あり  
甲の上  
(子行)

裸の子

やたらに痒い  
とこがあり

(清美)

硝子越  
拳骨なども  
やつて見せ

(水府)

チンカファン  
突つて出陣  
一ツ打ち

(半竹)

白酒を

きれいに飲んだ  
鼻の先

(古川柳)

上がみな兄で

男の眞似ばかり

(三大夫)



描つたら  
さあ寫しませ  
ハイバチリ

(逸名氏)

ラッシニアワ  
子持と子持  
打ち解ける

(木間暮)

べら棒に  
うまいと  
賞める雑な客

(古川柳)

針の穴  
其の都度  
孫は  
おだてられ

(三界)

洋服で

行くと村の子  
お辭儀をし

(叱咤郎)

先生が見て、  
後押し大馬力

(十九二)



癩に障るもの番附

前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開脇	大開
誰	頑	眠	多	借	人	客
で	固	る	忙	金	の	を
目	一	邪	中	を	目	見
下	徹	魔	の	踏	着	付
に	の	の	無	倒	て	込
見	親	物	駄	す	動	む
る	父	賣	話	奴	く	車
男	父	賣	話	奴	奴	夫

同	同	同	同	同	同	前頭
自	唾	雑	襪	飯	後	真
慢	で	費	を	を	から	面
に	切	を	着	替	来	目
す	つ	食	て	へ	て	の
る	た	る	式	る	先	時
儲	紙	下	場	へ	行	の
話	紙	宿	へ	来	く	嘲
	紙	屋	人	人	者	笑
			人	人	者	女

同	同	同	同	同	同	前頭
人	馬	乘	泣	喧	女	祝
中	鹿	客	き	嘩	の	宴
で	鹿	に	上	の	話	席
内	鹿	慳	戸	仲	の	の
証	男	食	の	買	好	兎
話	男	な	騒	して	き	角
を	の	車	ぐ	騒	な	貶
する	人	掌	女	奴	生	す
人	類	掌	女	奴	生	人

司 行 空 龔 して 挨 拶 せ ぬ 人 年 診 察 違 ひ を する 藪 醫 者

前頭	前頭	前頭	前頭	小結	開脇	大開
郵	巡	穴	談	拂	天	泥
税	査	か	話	つ	井	水
不	の	ら	中	た	裏	を
足	空	出	の	勘	で	飛
の	感	た	差	定	噪	ば
手	紙	脚	出	の	ぐ	す
紙	張	の	口	催	自	動
		眼	促	鼠	車	車

同	同	同	同	同	同	前頭
噴	共	小	標	矢	直	煙
嘩	同	物	一	鱈	に	草
を	事	代	つ	に	聲	ば
賣	を	を	で	怒	掛	か
る	忘	懸	怒	る	る	り
醉	る	張	鳴	夜	逃	呷
漢	人	括	り	店	け	ふ
	袴	り	込	商	る	下
	男	む	む	人	蟬	男

同	同	同	同	同	同	前頭
若	毛	人	本	拘	探	癩
い	毛	人	場	留	點	兵
者	毛	人	と	を	の	と
の	毛	人	偽	鼻	辛	孤
伊	毛	人	つ	に	い	兒
達	毛	人	て	か	先	の
眼	毛	人	誇	ける	生	ゆ
鏡	毛	人	る	る	生	すり



附番べらく方び呼女男

前頭 主 <sup>し</sup> 郎 <sup>らう</sup>	小結 奥 <sup>おく</sup> 且 <sup>ぢ</sup> だ	關脇 北 <sup>きた</sup> 良 <sup>らう</sup>	大關 才 <sup>さい</sup> 秀 <sup>しゆ</sup>	司行 姫 <sup>ひめ</sup> 鷹 <sup>たか</sup>	前頭 新 <sup>あらた</sup> 新 <sup>あらた</sup>	小結 奥 <sup>おく</sup> 殿 <sup>だん</sup>	關脇 令 <sup>れい</sup> 紳 <sup>しん</sup>	大關 佳 <sup>よし</sup> 才 <sup>さい</sup>	
さ の				夫 <sup>おとこ</sup>					
婦 <sup>めかけ</sup> 君 <sup>きみ</sup> ん 那 <sup>な</sup> 方 <sup>かた</sup> 人 <sup>ひと</sup> 媛 <sup>ひめ</sup> 才 <sup>さい</sup>				姫 <sup>ひめ</sup> 郎 <sup>らう</sup> 方 <sup>かた</sup> 様 <sup>さま</sup> 人 <sup>ひと</sup> 士 <sup>し</sup> 人 <sup>ひと</sup> 子 <sup>こ</sup>					
同	同	同	前頭	小 <sup>こ</sup> 業 <sup>わざ</sup>	同	同	同	前頭	
内 <sup>うち</sup> の <sup>の</sup>	女 <sup>め</sup> 亭 <sup>てい</sup>	妹 <sup>いもうと</sup>	弟 <sup>あにいもうと</sup>	家 <sup>いへ</sup> 家 <sup>いへ</sup>	嫁 <sup>よめ</sup>	姉 <sup>あね</sup>	兄 <sup>あに</sup>	令 <sup>れい</sup> 令 <sup>れい</sup>	
のの				家 <sup>いへ</sup> 家 <sup>いへ</sup> 嫁 <sup>よめ</sup> 姉 <sup>あね</sup> 兄 <sup>あに</sup> 令 <sup>れい</sup> 令 <sup>れい</sup>					
やひ				坊 <sup>ぼく</sup> 面 <sup>めん</sup> 食 <sup>く</sup> り 人 <sup>ひと</sup> ひしぎ					
つと 房 <sup>ぼう</sup> 主 <sup>しゆ</sup>				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
同	同	同	前頭	町 <sup>まち</sup> 平 <sup>へい</sup>	同	同	同	前頭	
小 <sup>こ</sup> 親 <sup>おや</sup>	姉 <sup>あね</sup>	兄 <sup>あに</sup>	伯 <sup>おやぢ</sup>	内 <sup>うち</sup> 長 <sup>なが</sup>	同	同	同	前頭	
信 <sup>しん</sup> 信 <sup>しん</sup>				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
信 <sup>しん</sup> 信 <sup>しん</sup>				細 <sup>こまか</sup> 大 <sup>おほ</sup> 女 <sup>め</sup> 親 <sup>おや</sup> 姑 <sup>おばあ</sup> 大 <sup>おほ</sup> 居 <sup>ゐ</sup>					
指 <sup>さし</sup> 指 <sup>さし</sup> 御 <sup>ご</sup> 貴 <sup>き</sup> 母 <sup>はは</sup> 父 <sup>ちち</sup> 女 <sup>め</sup> 士 <sup>し</sup>				君 <sup>きみ</sup> 將 <sup>しょう</sup> 將 <sup>しょう</sup> 分 <sup>ぶん</sup> 姉 <sup>あね</sup> 士 <sup>し</sup>					
同	同	同	前頭	別 <sup>わか</sup> 好 <sup>この</sup>	同	同	同	前頭	
お唐 <sup>おから</sup>				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
お兵 <sup>おへい</sup>				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
森 <sup>もり</sup> 森 <sup>もり</sup>				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
おち				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
つや				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
か				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
ア				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
ん				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
同	同	同	前頭	寄 <sup>よ</sup> 年 <sup>ねん</sup>	同	同	同	前頭	
阿 <sup>あ</sup> 奴 <sup>やつ</sup>	お鼻 <sup>おはな</sup>	美 <sup>み</sup> 胡 <sup>こ</sup>	不 <sup>ふ</sup> 不 <sup>ふ</sup>	引 <sup>ひ</sup> 馬 <sup>ば</sup>	魔 <sup>ま</sup> 郎 <sup>らう</sup>	人 <sup>ひと</sup> 人 <sup>ひと</sup>	神 <sup>かみ</sup> 六 <sup>むつ</sup>		
つや				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
か				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
ア				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
ん				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
阿 <sup>あ</sup> 奴 <sup>やつ</sup>	お鼻 <sup>おはな</sup>	美 <sup>み</sup> 胡 <sup>こ</sup>	不 <sup>ふ</sup> 不 <sup>ふ</sup>	娘 <sup>むすめ</sup>	蓮 <sup>れん</sup> 高 <sup>たか</sup>	毒 <sup>どく</sup> 悪 <sup>あく</sup>	お色 <sup>おいろ</sup>		
つや				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
か				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
ア				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					
ん				同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭					

附番立見口悪代當

前頭 木 <sup>き</sup>	前頭 蛙 <sup>かき</sup>	前頭 飲 <sup>の</sup>	前頭 嫁 <sup>よめ</sup>	前頭 金 <sup>かね</sup>	小結 近 <sup>ちか</sup>	關脇 看 <sup>かん</sup>	大關 婆 <sup>ば</sup>	司行 獅 <sup>し</sup> 屁 <sup>へ</sup>	前頭 三 <sup>さん</sup>	前頭 馬 <sup>うま</sup>	前頭 羽 <sup>う</sup>	前頭 雙 <sup>ふた</sup>	前頭 死 <sup>し</sup>	小結 長 <sup>なが</sup>	關脇 月 <sup>つき</sup>	大關 穀 <sup>こく</sup>
所 <sup>ところ</sup>								家 <sup>いへ</sup> 給 <sup>たま</sup> つ								
偶 <sup>ぐう</sup> の <sup>の</sup>								織 <sup>オリ</sup> の <sup>の</sup> 家 <sup>いへ</sup> 給 <sup>たま</sup> つ								
の <sup>の</sup>								二 <sup>ふた</sup> ゴ 早 <sup>はや</sup> な 金 <sup>かね</sup> 泥 <sup>どろ</sup> ぶ								
坊 <sup>ぼく</sup> 面 <sup>めん</sup> 食 <sup>く</sup> り 人 <sup>ひと</sup> ひしぎ								鼻 <sup>はな</sup> 腰 <sup>こし</sup>								
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭								強 <sup>つよ</sup> 赤 <sup>あか</sup>								
古 <sup>ふる</sup> 陣 <sup>じん</sup> 逆 <sup>さか</sup> お 一 <sup>ひと</sup> 義 <sup>ぎ</sup> 提 <sup>てい</sup> 喰 <sup>く</sup>								同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭								
ひ								腰 <sup>こし</sup> 空 <sup>くう</sup> 電 <sup>でん</sup> 賣 <sup>ばい</sup> 半 <sup>はん</sup> 情 <sup>じやう</sup> 内 <sup>うち</sup> 我 <sup>われ</sup>								
ほ								か								
た								威 <sup>い</sup> 氣 <sup>き</sup> 残 <sup>ざん</sup> 鐘 <sup>かね</sup> け 股 <sup>また</sup> 々 <sup>々</sup> 知 <sup>し</sup> 々 <sup>々</sup> 泥 <sup>どろ</sup> ら 膏 <sup>こう</sup> 亡 <sup>むし</sup>								
理 <sup>り</sup> 笠 <sup>かさ</sup> る 芋 <sup>いも</sup> 師 <sup>し</sup> す ちし								張 <sup>は</sup> 螺 <sup>ら</sup>								
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭								寄 <sup>よ</sup> 年 <sup>ねん</sup>								
山 <sup>やま</sup> 馬 <sup>うま</sup> 高 <sup>たか</sup> ぬ 天 <sup>てん</sup> 陰 <sup>いん</sup> 三 <sup>さん</sup> 親 <sup>しん</sup>								梅 <sup>うめ</sup> 薬 <sup>やく</sup>								
等 <sup>ら</sup>								ぼ 鐘 <sup>かね</sup>								
の <sup>の</sup>								し 親 <sup>おや</sup>								
の <sup>の</sup>								婆 <sup>ば</sup> 父 <sup>ちち</sup>								
神 <sup>かみ</sup> 脚 <sup>あし</sup> 間 <sup>ま</sup> 作 <sup>つく</sup> 鬼 <sup>おに</sup> 慶 <sup>えい</sup> 目 <sup>め</sup> せ								締 <sup>ひ</sup> 取 <sup>と</sup>								
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭								他 <sup>た</sup> 人 <sup>にん</sup> の <sup>の</sup> 疝 <sup>ぜん</sup> 氣 <sup>き</sup>								
薄 <sup>うす</sup> 珍 <sup>めづ</sup> 青 <sup>あお</sup> 腰 <sup>こし</sup> 彈 <sup>たま</sup> 尻 <sup>しつぽ</sup> 出 <sup>で</sup> お								同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭								
か 馬 <sup>うま</sup>								神 <sup>かみ</sup> 食 <sup>く</sup> 鳥 <sup>とり</sup> 錢 <sup>ぜに</sup> 匙 <sup>し</sup> 狗 <sup>いぬ</sup> 喰 <sup>く</sup> り								
の <sup>の</sup>								同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 前頭								
の <sup>の</sup>								盗 <sup>ぬす</sup> の <sup>の</sup> 人 <sup>ひと</sup> 長 <sup>なが</sup> 豆 <sup>まめ</sup> 識 <sup>し</sup> も 女 <sup>め</sup>								
ツ 先 <sup>まへ</sup>								人 <sup>ひと</sup> 三 <sup>さん</sup> つぐ								
ろ 林 <sup>はやし</sup> 筆 <sup>ふで</sup> 着 <sup>き</sup> 者 <sup>もの</sup> あり 尻 <sup>しつぽ</sup> 棒 <sup>ぼう</sup>								ま っ 泥 <sup>どろ</sup> か 振 <sup>ふ</sup> り								
								な 化 <sup>か</sup> 振 <sup>ふ</sup> り								
								こ ぼ 七 <sup>しち</sup> 尻 <sup>しつぽ</sup> 棒 <sup>ぼう</sup> り ちり								



男一匹  
待たささ、  
ダブルシー  
(兵六)



釣銭を  
女給未練な  
眼で見つめ  
(風石)

マナ、賣いたげるや  
うにしては見え  
(三太郎)



抛り出しますと  
二階の忘れもの (辰巳)



標札の見本  
正成などと  
(葉舟)



糞拂ひ  
ぶん換ら  
れた  
だけの損  
(牛里字)



たゞ散歩だけが  
女房氣に入らず  
(貴山)



アスハルト  
マナ、の皮に  
又たすり



ウキンドの  
手招を借りる  
大荷物  
(愛瑠)



追掛けて  
来るのへ  
嫌な  
嫌って  
やり  
(権柳)



林押の  
尻を刺茶が  
あぶながり  
(日本原)



銀手の贈  
通り過ぎ  
ると息をつき  
(夢男)



當選は  
只頭下げ  
頭下げ  
(小六)

弱蟲が  
何を吠えるも  
ブルドンク  
(青明)

親よりし  
銀鬼大將な  
怖がる兒  
(放月)

つくばつた  
話しば主へ  
何か書き  
(古川柳)

籠かけの  
四五間ききで  
犬がじやれ  
(古川柳)

道路工  
時に荷車  
押してやり  
(桃太郎)



先生に  
丸見えられ  
赤い顔  
(彌太郎)

除隊兵  
やたら敬禮して  
別れ  
(けい坊)

いゝ風流さ  
涼んだ石で  
汗をかき  
(古川柳)

パラソルを  
持たして  
妻のコンパクト  
(志米造)

親子  
つれ  
チップの  
入らぬ  
とこを選り  
(有咤)





どの景色へも  
女房が撮ってる  
(高雄)



新妻が  
何やら書けば  
氣にかゝり  
(冠子)



留守の夜を  
木剣持って  
妻懐へ  
(静香)



新妻の手前な  
友は傾からず  
(余念坊)



悪友が  
取ってくれた  
櫻紙  
(菊よし)



食堂が  
娘女房に  
混み過ぎる  
(美津木)



寝轉んで見る  
新妻の針仕事  
(錦浪)



フロンタの夫を  
頼母しく眺め  
(初子)



新妻が出て  
親友はあらたまり  
(習作)



豆腐屋を  
折柄八百屋  
昇んで呉れ  
(芥子郎)



しつけ糸まるめ  
潜心地  
聞いて見る  
(逸名氏)







喧嘩か  
見れば瀬戸物  
賣るの也  
(春雨)

運勢を  
見てみるうちに  
拘摸にあひ  
(芝野浦人)

西瓜賣  
首賣見の  
やうに見せ  
(古川柳)

風塵店  
袂の中に  
紙の音  
(劍花坊)

我が子には  
一つもやらの  
風船屋  
(劍花坊)

逃げた  
蚊の  
顔を知つ  
てる  
シウマイ屋  
(小次郎)



新世帯  
強飯が出来  
粥が出来  
(古川柳)

新世帯  
男が来ては  
柵をつり  
(古川柳)

新世帯  
月給前は  
味噌で喰ひ

帯しめる  
そばに烟杖  
ついて待ち(那岐坊)

奥さん  
ですかと舊友  
あらたまり  
(松郎)

新家庭  
男も顔へ  
何か塗り  
(久保)







現代流行琵琶歌番附

前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關	横綱	司行	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關	横綱
羅生門	鉢木	龍口	城山	常陸丸	義士の本懐	石童子丸	白虎隊	橋大	別業	臺中	小川	川中	西郷島	廣瀬盛	本能寺	湖水渡
同	同	同	同	同	同	同	前頭	佐長	同	同	同	同	同	同	同	前頭
湖水	長柄	石田	木村	俊寛	關野	山科	那須	猿蟹	阿新	佐渡	兩中	山崎	衣崎	村上	護上	吹雪
同	同	同	同	同	同	同	前頭	合茶	同	同	同	同	同	同	同	前頭
西行	大徳	小徳	桶狭	筑後	項川	高山	長篠	伏見	阿新	佐渡	兩中	山崎	衣崎	村上	護上	吹雪
同	同	同	同	同	同	同	前頭	宅陽	同	同	同	同	同	同	同	前頭
太田	菊田	千手	重島	屋島	紅葉	小袖	雪會	武林	關毒	江島	七馬	靈馬	菅馬	四五	接條	夜の
同	同	同	同	同	同	同	前頭	饅加	同	同	同	同	同	同	同	前頭
羽衣	蓬山	櫻狩	武藏	血染	三原	小松	河内	南内	頭寄	泉三郎	元冠	錦の	春御	月下	金ケ	宇治
同	同	同	同	同	同	同	前頭	經勸	同	同	同	同	同	同	同	前頭
舌切	茶臼	扇白	小松	横松	奇縁	送別	國船	吉野	進正	兎と	大乳	荒海	威剛	金木	若木	笹の
雀山	芝原	芝原	菅原	縁原	別原	船原	静野			龜山	關衛	石花	花梅	梅先	侍先	

ダイヤの手  
出されて眠く  
切符賣り  
(雲花)



海水浴  
母はいさよか  
気がとがめ  
(雨月)



満員  
特等席は  
コンパクト  
(森枝女)



防寒が  
飾りかシヨ  
おん落ちるやう  
(里塔庵)



損料屋で  
借りたと知らぬ  
嫁の里  
(夢六)



普通には  
妻壇上の  
人となり  
(翠歩)



見よがしの  
指環はわざと  
ぶら下り  
(夢平)



きつとした  
座敷欠伸な  
鼻でする  
(古川柳)

断髪と  
島田互に  
振り返り  
(禿二郎)



初対面  
何の着物に  
何の帯  
(翠水女)

ダイヤの手  
上に重ねて  
お辭儀する  
(春夢)



若くさへ  
云へば喜ぶ  
女なり  
(乾坤)





わるい道  
手が板橋な  
あるくなり(古川柳)



鬼も十八  
お多福へ  
ふみが来る  
(紅夢)



小説に  
飽きてほじくる  
糞炭(小次郎)



どつちもが  
振りむくどつち  
もの姿(夜半杖)



ひる前に起きて  
構食相面を磨き(劍花坊)



病人に  
ちと長過ぎる  
女香  
(安泰子)



血判の  
艶書に女儀  
梨をむき  
(白交)



婦人科へ  
人は見掛けに  
よろめなり  
(餘念坊)



笑ふにも  
女は線な  
氣にかける(茶吉)



神様へ  
何人目かを  
見せに来る  
(文治)



體中税を着て居る  
耳かくし(劍花坊)



手枕の  
女も二九  
柳がぼれ(不二丸)

姉婿と  
ゆつくり話す  
姉の留守(粹多樓)



幾人とも男を殺す  
美しくさ  
(剣花坊)



追ひわけり  
でもなく後な  
来る男  
(菊人形)



洋装の足は  
日本人の足(尺蠖)



両袖を  
肩にかついで  
帯をしる(三文)



美しい  
女見向きも  
せず通り  
(愛の人)



蝶の羽を透いて  
女の膚が見え  
(剣花坊)



俵屋の  
威勢がらがふ  
流行ッ奴



和服に帽子なら  
洋服に島田です(剣花坊)

十年も  
前の心を  
帯に見る(折果)



長いこと  
女が待たす  
洗面所  
(室風)



とろいの  
摺古木  
「き處に困り  
(古川柳)



立聞きは  
くさめ一ツな  
もてあまし  
(古川柳)





大關 いざさらば雪見に轉ぶ所まで  
 開關 朝顔に釣瓶取られて貰ひ水  
 小結 布圍着て寝たる姿や東山  
 前頭 ひとつとして戻れば門に柳かな  
 前頭 夕立や田を三圍の神ならば  
 前頭 君は今駒形あたり杜鰐  
 前頭 何事ぞ花見る人の長刀  
 前頭 時鳥々々とて明けにけり  
 芭蕉 千代女  
 其角 去來尾  
 同 同 同 同 同 同  
 前頭 元日や晴てすめの物語り  
 梅が香にのつと日の出る山路哉  
 木枯の果はありけり海の音  
 遊かろか知らねど柿の初契  
 梅一輪々々づつの暖かさ  
 吾と来て遊べや親のない雀  
 嵐雪 其角 芭蕉 素堂 言水 千代女 嵐雪 一茶

行古池や蛙飛び込む水の音  
 芭蕉  
 寄元朝の見る物にせん富士の山  
 宗鑑 守武

大關 明月や疊の上松のかけ  
 開關 黄菊白菊其外の名はなくもがな  
 小結 是はくとはかり花の吉野山  
 前頭 枯枝に鳥の止りけり秋の暮  
 前頭 五月雨や或夜ひそかに松の月  
 前頭 ひと抱へあれど柳はやなぎ哉  
 前頭 長松が親の名で來る御座哉  
 前頭 來年は來年はとて暮れにけり  
 其角 嵐雪  
 同 同 同 同 同 同  
 前頭 目出度さも中位なり己が春  
 井の端の櫻あぶなし酒の酔  
 世の中は三日見ぬ間の櫻哉  
 起て見つ寝て見つ蠅の廣さ哉  
 白露や無分別なる置どころ  
 化物の正體見たり枯尾花  
 鐘一つ賣れぬ日はなし江戸の春  
 大晦日定めなき世の定め哉  
 秋色女 千代女 宗因 也有 其角 西鶴

大關 いい男世間を暗いものにする  
 開關 美男にてありし若氣の至なり  
 小結 中學を半途でよすは美男なり  
 前頭 親分まくまふ江戸の美男美女  
 前頭 業平といはれた男早く死に  
 前頭 女房が見れば亭主が美しい男  
 前頭 美しい魔が寄て來る美男なり  
 前頭 好男子水白粉をよくつける  
 前頭 三度目の眞犯人は美男なり  
 伯父さんに預られてる美しい男  
 賣口の悪い美男の運轉手  
 若旦那顔が長くて美男なり  
 美しくい男とかくに出世せず  
 美しい男娘は乳母の袖を引き  
 惚られて惚て美男は行つまり  
 尺八を吹いて娘を煩はせ  
 前頭 美くしい顔で權三は槍をもち  
 こわ色に耽る美男の夕涼み  
 美男だときいて盲は只笑ひ  
 反身して安香水の美男なり  
 好い男引越の荷に下駄をさけ  
 こちとらがあつた事かと都鳥  
 好男子女の様な船りめん  
 業平に似た程戀に遠ざかり

司行 見合する日まで互に美男美女  
 男伊達家へ美男美女をつれ  
 ほんやりと美男と美女へ夜が明る  
 美男美女戀の枕に夢がさめ  
 寄年 美男子に生れて長い五十年  
 美しい女人生五十年

大關 美しい女に女ふり返る  
 開關 磨かずに光つて孝女橋なり  
 小結 美しい女人の眼が邪魔になり  
 前頭 ほめられて美女兩親に泣別れ  
 前頭 美女の戀何にも言はず瘡て行  
 前頭 美女にして死ぬ程辛い事に會  
 前頭 眞の美女などと三面笑はせる  
 前頭 父のない美女私生兒の母と  
 前頭 美しい女九尺二間をあかるくし  
 丸髷になつて美人の籍をぬけ  
 美しい女が事の起りなり  
 憎いほど浴衣の似合ふ美しい女  
 婿選みあたら小町の年が老  
 今は昔すれちがひから戀病  
 美しい女何に拗たか尼になり  
 花嫁の三日は世にも美しい  
 前頭 東髪と島田丸髷三つ巴  
 姉二人後に廻して玉の輿  
 月のさす蚊帳に女の亂れ髪  
 山奥におくは惜しいと女將云  
 三面に美人となつて無分別  
 大薩摩美女が變化になる場合  
 言事をきかない美女の不仕合  
 美女の口齒醫者は接吻し也

動物應用譬喩詞番附

前頭 蚊	前頭 猫	前頭 夜	前頭 鳥	前頭 彌	小結 狸	開關 藥	大關 猫	司行 虎	前頭 狼	前頭 鳩	前頭 查	前頭 井	小結 狼	開關 猫	大關 袋	前頭 狸
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
馬	背	鷹	蝠	馬	爺	蜻	り	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	前頭	同	同	同	同	同	同	同	同	同
鎗	獅	飯	鯉	鯉	虎	鷄	猪	子	の	の	の	の	の	の	の	の
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
髭	鼻	蠅	所	ち	卷	目	首	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	前頭	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ゲ	猿	蛇	藪	馬	家	鼠	猫	ジ	蜂	の	鳴	の	の	の	の	の
親	智	と	耳	に	文	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
父	恵	す	蛇	佛	庫	き	額	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	前頭	同	同	同	同	同	同	同	同	同
田	河	張	泣	餃	歳	麒	蹄	作	童	子	暮	鼠	の	の	の	の
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
歯	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
り	尻	虎	蜂	肌	蛙	兒	道	同	同	同	同	同	同	同	同	同

不食山海珍味番附

前頭 立	前頭 半	前頭 片	前頭 伊	小結 布	開關 湯	大關 恪	司行 婆	前頭 禪	前頭 三	前頭 伴	前頭 金	小結 布	開關 指	大關 併
ん	可	勢	圓	上	氣	の	の	の	の	の	の	の	の	の
坊	通	思	屋	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
不	二	尺	鼻	大	棚	車	同	同	同	同	同	同	同	同
意	の	股	度	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
び	つ	大	の	圓	田	牡	新	の	の	の	の	の	の	の
り	根	鯨	子	刺	餅	米	同	同	同	同	同	同	同	同
老	懐	浮	肌	顔	髪	笠	同	同	同	同	同	同	同	同
人	中	氣	の	毛	の	の	同	同	同	同	同	同	同	同
の	の	の	の	の	の	の	同	同	同	同	同	同	同	同
海	文	蓮	絲	玉	鏡	蜀	同	同	同	同	同	同	同	同
老	じ	葉	稗	瓜	黍	頭	同	同	同	同	同	同	同	同





洗濯に  
嫁長刀の  
身ごし  
らへ  
(古川柳)



雄棚の  
猫鶴の  
嫁騒ぎ(古川柳)



だらうと  
いふに嫁  
いふえいふえ  
(古川柳)



花嫁の  
土産は里へ  
活如来(古川柳)



大笑ひ  
嫁聞取と  
同い年  
(古川柳)

美髪研究所



髪結の  
家から長い  
首が出る(句染)



一つ身を  
巻いて二つに  
なるを待ち  
(古川柳)



笑ふたび  
嫁の片手は  
口へ来る  
(東魚)



如才ない  
嫁お経なも  
讀み習ひ  
(古川柳)



琴の身  
構へて神な  
嫁たみ  
(古川柳)



話ひながら  
着て行くといふを  
考へる(柳山人)







附番句名

司 世の中は三日見ぬ間の櫻かな 夢 太

大關 何事ぞ花見る人の長刀 去 來

關 花に鐘そこのき給へ喧嘩 買

小結 奈良七重七堂伽藍八重櫻 芭 燕

前頭 氣に入つた櫻の蔭もなかりけり 紅 燕

前頭 おふけなく借家の櫻咲にけり 紅 燕

前頭 龍宮の鐘のうなりや花の雲 丈 草

前頭 眞先に見し枝ならぬ散る櫻 句 丈

前頭 煩悩の花の都と鐘が鳴る櫻 句 丈

前頭 一掴み鴉のこほす櫻かな 柳 句

前頭 花に埋れて夢より直に死む哉 越 句

前頭 山櫻上野は人の疊りかな 竹 句

前頭 一僕とほくく歩く花見かな 季 句

前頭 初櫻鞍馬に天狗揃ひけり 小 句

前頭 櫻咲くや都に牛の匂ひさへ 酒 堂

前頭 槍持は立はだかりて花見哉 許 堂

前頭 足跡は男なりけり初見哉 千 代

前頭 峰の雲少しは花も交るべし 野 女

前頭 天の川峰よりかゝる櫻かな 杉 風

前頭 下々に生れて夜も櫻かな 一 茶

寄 散花を南無阿彌陀佛と夕べ哉 守 武

手枕に夢はかざしの櫻かな 燕

面白や理屈はなしに花の雲 越

我朝はなべて櫻の木の間哉 士

鬢あらは二十五弦や絲櫻 抱 一

番匠が褒めて飯食ふ櫻かな 似 五

世の中は夢よ櫻よとろ汁 五 似

花盛り人間多くなりけり 槐 五

傘さして駕かき花の都哉 太 市

花の幕意中の人と隣りけり 雲 太

傾城は後の世かけて花見哉 白 燕

散る櫻嵐に答ふ言葉なき 白 燕

入相や櫻は人を散ると見ん 紅 午

詠み人の跡追ふ櫻月夜哉 浪 紅

一本をくるりくと花見かな 浪 紅

花盛り大腹中になりけらし 浪 紅

家ありや夕山櫻灯の吹く 浪 紅

花盛りや後姿に風ぞ吹く 浪 紅

一畝踏る後姿に風ぞ吹く 浪 紅

隠れ住んで花に眞田が識かな 燕 也

花 今 古

行 花の雲鐘は上野か淺草か 芭 蕉

大關 木のもととは汁も餘も櫻かな 芭 蕉

關 此のやうな末世を櫻だらけ哉 一 芭

小結 花に風軽く来て吹け酒の泡 嵐 雲

前頭 明星や櫻定めぬ山かづら 其 角

前頭 花咲いて天下に敵はなかりけり 鳴 雪

前頭 馬下りて高根の櫻見つけたり 燕 村

前頭 朝露に櫻の雫の零るぞ 夢 太

前頭 花曇り第二の贗衣着て行かん 芭 蕉

前頭 花咲いて七日鶴見る麓かな 芭 蕉

前頭 汽車の窓に見あぐる岡の櫻哉 子 芭

前頭 中十日梅に見あぐる岡の櫻哉 子 芭

前頭 寺あれば櫻宮あれば櫻かな 鳴 雪

前頭 花の雨小袖をしくて歸るかや 水 鳴

前頭 井の端の櫻あぶなし酒の酔 秋 色

前頭 人の戀し灯ともし頭を櫻散る 白 女

前頭 傘さして馬に乗りけり山櫻 格 堂

前頭 花守や白馬を突合せ 去 來

前頭 化された人が通るぞ櫻盆 紅 燕

前頭 櫻ちる朝靜かなり煙草盆 篤 老

年 山櫻おもふ色そふ霞かな 宗 長

順禮も立ち交りけり櫻狩り 貞 貞

咲くからに見るからに花の散るからに 白 拍

花に舞はで歸るさ惜し白拍子 燕 村

花の雲世を一ぱいの入日かな 紅 卯

草臥や西施のひそむ櫻茶屋 鳴 雪

君見よや八百八町みな櫻 山 川

朝櫻寝髪にかゝる匂ひかな 子 規

花散つて水は南へ流れけり 涼 子

どちらへも遠き山路や遅櫻 雪 人

初花にうつらふ雲の色寒し櫻 里 山

世の中はたゞに櫻の九重哉 風 童

打解けて我に散るなり夕櫻 白 童

花と眺め櫻と眺め日は暮れぬ 芭 蕉

半日の雨より長し絲櫻 芭 蕉

下臥や花に乞食の炊き櫻 星 布

かばかりの枯木探すや花の遅櫻 丈 布

啄木鳥の枯木探すや花の遅櫻 丈 布

木母寺の灯を見暮る花見哉 竹 丈

三味線に樽を掛たる花見哉 子 規





推球 (推球)  
妻の安産 (妻の安産)  
知らせて来 (知らせて来)  
(幽路)



空馬に (空馬に)  
女房を乗せる (女房を乗せる)  
展り道 (展り道)  
(伊達)



決議する (決議する)  
拍手の音に (拍手の音に)  
目が醒める (目が醒める)  
(一良)



繁昌を (繁昌を)  
するは主 (するは主)  
人の尻 (人の尻)  
からけ (からけ)  
(夢路)



佛壇へ博士 (佛壇へ博士)  
になった事を (になった事を)  
告げ (告げ)  
(尺鷹)



一日の勞を (一日の勞を)  
女房の邊 (女房の邊)  
團扇 (團扇)  
(天)



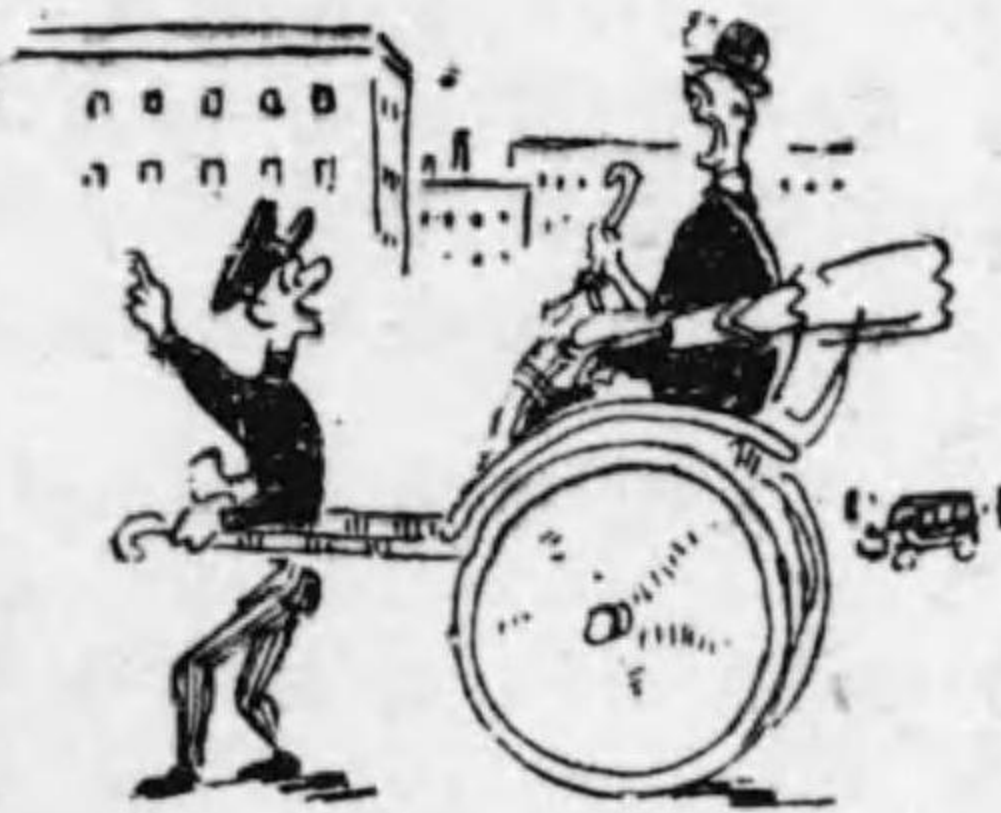
どん底に (どん底に)  
しては平和な (しては平和な)  
くらし向き (くらし向き)  
(雲樹郎)



地方官 (地方官)  
行く先々で (行く先々で)  
子が生れ (子が生れ)  
(古城山)



香巻を (香巻を)  
片手であける (片手であける)  
懐ろ手 (懐ろ手)  
(市場)



ビルディング (ビルディング)  
見せて偉夫 (見せて偉夫)  
自慢なり (自慢なり)  
(紅夢)



お達者で (お達者で)  
よろしいと耳へ (よろしいと耳へ)  
口を寄せ (口を寄せ)  
(逸名氏)



扇車 (扇車)  
亭主がなほす (亭主がなほす)  
子の頭巾 (子の頭巾)  
(痴佛)



おしまひに (おしまひに)  
父も乗り出す (父も乗り出す)  
顔相續 (顔相續)  
(逸名子)



附番歌訓教今古

大開	身にもたる玉と雖も磨かすば あたら光の世には知られじ	前頭	世の中に書くべき事を書すして 事をかくなり恥をかくなり
開臨	恥を知れ恥を知らねば恥をかく 恥にすぎたる恥はあらしな	同	眞實の目が明かぬ故うろたへて 我と我が見る愛い目辛い目
小結	世のわざの濁りそめたる人心 文讀む程に清く澄みけり	同	何事もりの越え行く世の人の 心にかたき關守もがな
前頭	朝夕に顔と手足を洗ふなり 心の垢もすぐべきなり	同	往古の道を聞きても唱へても 我が行ひにせずば甲斐なし
行	人多き人の中にも人ぞなき 人になれ人人になせ人	寄年	忘るなよ春は耕やしたねかして 夏は耘り秋は收めて
大開	勤めてもまた勤めても勤めても 勤め足らぬは勤めなりけり	前頭	折々は遊ぶいとまはある人の いとまなしとて文讀ぬかな
開臨	磨きなば磨いた丈に光るなり 性根玉でも何の玉でも	同	世の爲に蟹なす文字を學ぶとも 横走りする人と云はるな
小結	世の中を恥ぬ人こそ恥となれ 恥る人には恥ぞ少なし	同	八百の嘘を上手にならべても 眞實一つに適はざりけり
前頭	書讀めば昔の人はなかりけり みな今もある我友にして	同	濁りなく心の中に水すまば のどけき星の影も見えなむ
前頭	目鼻口手足は人の並なれど 心一つで廢る身體ぞ	同	手や足の汚れは常に洗へども 心の垢を洗ふ人なし

附番歌得心庭家古新

大開	炭で炊米は水からかけるなよ湯炊にせねば下が焦つく 松茸の毒は豆腐で消すものぞ共に食るが何よりもよし	前頭	生味噌を溶たる汁で洗ふべし煙草の脂の附た着物は 菜葉をば漬る時には櫛木で葉をば叩けば味が良なる
開臨	暑き日に酢を買ひたらば鹽少し混て置ぬと早く腐るぞ 生栗の皮むいて葛の粉をまぶして置ばアクが無なる	同	一升に梅干二粒三粒入れ置ば盛夏も櫃の飯が腐らぬ 樟腦をお酒で溶いて塗って見よ漆感は直ぐ治るなり
小結	油焔火鉢の中に棲むならば硫黄燻して逐ひ出すがよし 鹽辛き鮭は一日水に浸け夫から焼くと味がよくなる	同	足指下駄の表に附きたれば雪花菜を布に包み拭べし 白砂糖の善きと悪きを知らば量と光澤と堅をば見よ
前頭	鹽味は米汁を煮て鹽を入れ焙りたる糠を攪和るなり 酢を少し入れて荒布を煮る時は味もよくなり軟くなる	同	庖丁を温めてこそカステラを切ば容易ものにて有免
前頭	蠶繭の太さの割に輕いのは中に鬆のある證據とぞ知れ	寄年	日々炊く米は小粒で透通り光澤ある物を選ぶこそよし 白米を蒸て湯に入れ膨らせて又も蒸すのが蒸炊の飯
行	水道の始めの水は使ふなよ鉛の管に毒ぞ籠らむ ヨヂームを滴して色の變るのは澱粉質を混ぜた牛乳	前頭	血の汚點は熱湯を買つて摺下し附て洗ふと能く落る也 梅干を入れて鍋を煮るならば臭も抜けて味も好くなる
大開	鐵釜の金氣をぬくは芋屑か柘榴の皮を入れて煮て見よ 酒の汚點ついた着物は遠早く煙草の煙を吹かけるべし	同	炭の粉を戸棚に入れて置く時は肉や魚が早く腐らぬ 芋の皮の煮汁で日夜温めばかゆい凍瘡すぐ治るなり
開臨	味噌汁を立て酸味のある時は曹達を少し混るこそよし 干瓢を洗ふて鹽でよくもみて洗ふて煮れば軟くなる	同	米麩汁で牛蒡、菊、豆等を茹でれば早く軟くなる 油垢着た衣服は熱湯に鹽一にぎり入れ冷してぞ洗ふ
小結	干瓢を洗ふて鹽でよくもみて洗ふて煮れば軟くなる 石油の臭を早く消さんには番茶燻して手をばかさせよ	同	赤蟻が砂糖の壺に附ならば先づ書て置け白墨の輪を 酒の中に悪き藥の入あらばクロール鐵で検査し見よ
前頭	澤庵を漬ける時には豆を焙り一側づゝに振り撒がよし 笹の葉や竹の皮をば入れて煮よ小豆は早く軟くなる	同	
前頭	笹の葉や竹の皮をば入れて煮よ小豆は早く軟くなる 松茸を買ふには莖を先摘め硬きものには蟲が居らぬぞ	同	













大開	私や名譽も金も要らぬ好い貴方添へる	華族の娘	前頭	いふて見やうに其日は過る	妾結の娘
開脇	今かくと時計を眺め待た辛いの	時計屋の娘	同	主一人飛行機に乗新旅行がたい	飛行家の娘
小結	理屈いふ人心も嫌ひい理屈稼業も	辯護士の娘	同	るりも珊瑚も磨けば光る主心其通	寶石商の娘
前頭	遠慮なさい時寫眞眺めて一人言	寫眞屋の娘	同	偉い〜と賞客をさるゲーム取	玉突屋の娘
前頭	硯引寄せ墨すり流し恨みを書かす	文具商の娘	同	襟につくのも操の一ツ是主の爲	襟屋の娘
前頭	酸も甘い承知の上愚痴も小言も云はせ	菓子屋の娘	同	やつとの思生花を仇に倒し憎い風	花宗匠の娘
前頭	舊をたせば鎗一筋の家生此の私	武士の娘	同	儘にならぬ肝癢起思も妻楊枝	楊枝屋の娘
前頭	目には涙の出る承知能く此山葵	八百屋の娘	同	くるかくと思案の最中落た算盤	墨屋の娘
前頭	時雨ふる中相々傘で人目忍んだ二人連	傘屋の娘	同	私しや毎日千尋の海へ飛込なら日暮	海士の娘
前頭	ちよいと御覽よ洋服の後姿氣に	洋服屋の娘	同	調子合せて三味線も主の顔見や上の空	師匠の娘
前頭	煙草はくた火のひも失せ辛氣事	煙草屋の娘	同	籠の中に鳴く鶯の初音床し君を待	飼鳥屋の娘
前頭	堅く心に錠前おろし迂闊人	金庫屋の娘	同	鈍いお客を口で騙し上り下りして見	待合の娘
前頭	碌に話も聴かない切てしは胸慾	電話屋の娘	同	井戸の蛙といはら〜行氣更にい	井戸屋の娘
前頭	留守かとも覗いて見内は普請	大工の娘	同	うまい料理出度毎に家繁昌思の出	料理屋の娘
前頭	今日二日頃の願が叶ひ二人連神詣	神官の娘	同	黄楊の横櫛薄化粧し鳴海校の伊達姿	櫛屋の娘
前頭	目には見えずともよからず刺見蒸し芋	焼芋屋の娘	同	私の心は賣る青竹よ割て見胸の	竹屋の娘

行 ひなの人形のやうだと言はれ  
耻かしいやら嬉しやら  
人形屋の娘

年 利息入れなきや流しておくれ  
最早四月ぢや是非がない  
質屋の娘

大開	泣き目出度門出早御無事に凱旋	軍人の娘	前頭	夜ふけて淋しく〜笛犬の遠吠氣に	按摩の娘
開脇	寢ても覺も忘れはせぬ二世交した此指環	貴金屬商の娘	同	風に帆を上し思を載て行け千里何の	船頭の娘
小結	秘密々々々居る人云此苦勞	探偵の娘	同	泣な嘆な化粧が刺れる人〜大勢前	化粧品屋の娘
前頭	お顔見なが儘硝子障子の内外	硝子屋の娘	同	下手な如でも一心籠石立矢試あり	大弓場の娘
前頭	反古にしや勿體ない紙を伸紙	紙屋の娘	同	後〜と話が續き續出して長	絲屋の娘
前頭	やせる管だけ此頃茶鹽主爲	茶屋の娘	同	思案に餘て八封を見れば末嬉し吉	易者の娘
前頭	碌に英語もしらない癖に英語文	語學教師の娘	同	止よと思つて止者は私浮氣と蒸豆	煎豆屋の娘
前頭	三度に一度頭附食嬉し家業柄	魚屋の娘	同	繋ぎ留たい彼荒馬戀手續で括り附	餅掛屋の娘
前頭	蹴飛ばされよが踏付私切	下駄屋の娘	同	傷は〜と齒で齧て見昨夜噛れた傷	齒科醫の娘
前頭	見は見る程り見當世流行の物	雜貨屋の娘	同	團扇違ひに誠を見せて好に送風	團扇屋の娘
前頭	合も齒根無理〜口惜粉煙管嚙	煙管屋の娘	同	小兒寝かして電燈を夜更迄針仕事	仕立屋の娘
前頭	切た夫に未練はない道具惜	道具屋の娘	同	親父人力私や口車乗て互に苦勞する	車屋の娘
前頭	文を出した未だ返事來ぬ氣に	郵便配達の娘	同	折々内邪魔遠火焦焼上手	振餅屋の娘
前頭	廻り屏風にたちきる棟二人忍聲	建具屋の娘	同	へたな鐵砲も数々私思當り	鐵砲屋の娘
前頭	會て嬉しく思ふは暫し夜明鐘	寺院の娘	同	意見する程尙酒飲で人を困	酒屋の娘
前頭	遠慮なさい上つて飲解氷水	氷屋の娘	同		

司 軒に吊れたわしや風鈴よ  
こかく浮世は風次第  
風鈴屋の娘

寄 私の心と蒸汽の烟は  
遠くなるほど見えはせぬ  
船長の娘



附番川山込讀物人

大關 大久保の自慢は萬の集文珠山 三河	前頭 頼光が兇賊討ちし伊吹山 近江	前頭 信長が猿を拾つた小牧山 尾張
關 祖師の名は唯日蓮が身延山 甲斐	同 家康の永く眠れる日光山 下野	同 養老の酒どくくも多度山 美濃
小結 維茂が酔ひ兎鬼女の戸隠山 信濃	同 自來也が嬰兒を抱く彌彦山 越後	同 頼朝が七騎落たる杉の山 伊豆
前頭 頼光は酒で殺した大江山 丹後	同 幸村が狸だましの九度山 紀伊	同 身代りの片岡かなし玉置山 大和
前頭 牛若が天狗仕込か鞍馬山 山城	同 長年の背には重たい船上山 伯耆	同 秀吉が明智とにらむ天王山 攝津
前頭 秀郷が蟻退治の三上山 近江	同 勝頼が身を恨みけり天目山 甲斐	同 失戀に泣くか靜かよ吉野山 大和
前頭 南朝の悲劇の跡や吉野山 大和	同 藤原の涙の後や笠置山 大和	同 銀閣も榮華の夢よ東山 山城
行 石童丸父を尋ねて高野山 紀伊	正成が最期に仰ぐ金剛山 河内	寄年 嗚呼 楠子の墓は湊川 攝津
司 清姫が恨み重なる日高川 紀伊	梶原と佐々木競た宇治川 山城	忠臣 鶴市の哀れ残せし山國川 豊前
大關 阿部豊後出来とく隅田川 武蔵	前頭 新七が男なりけり馬入川 相模	同 手枕の千代の妾よ利根川 常陸
關 朝顔の戀が届かぬ大井川 駿河	同 頼朝と梶原並ぶ名取川 大和	同 與右衛門が果殺した鬼怒川 常陸
小結 貞任が歌でのがれた衣川 陸中	同 上杉輝正狼狽騒ぐ大和川 大和	同 水鳥が平家脅した富士川 駿河
前頭 太閤が思ひ出してか矢矧川 三河	同 親玉の涙語らむ芦の瀬川 紀伊	同 楠正勝無念やな十津川 紀伊
前頭 南朝の涙集まる吉野川 大和	同 信長が浅井を破る姉川 近江	同 西行が残した野田の玉の川 陸中
前頭 稻田姫蛇に取られたる鏡川 出雲	同 一度は梅壺死んだ藍染川 筑後	同 孫太郎蟲の本場と奥の犀川 陸奥
前頭 浮名をばお半流して桂川 山城	同 祐天がさんとはかり戸坂川 甲斐	



附番しくづきつ世浮

行 地震が恐いと怒りつき  
司 やつと此所まで辿りつき

是で話の焔がつき  
悪事露顯は運のつき

年 角力を取るには行司つき  
寄 勝つた力士に星がつき

前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關																													
置いた質には利子がつき	子供は正月羽子をつき	呉れたものには條件つき	表で轉ぶと土がつき	娼妓が惚れたと嘘をつき	暮ると町に電燈をつき	臭い物には蠅がつき	綺麗な女中にお手がつき	世間話も世辭の種	破れた戀は自棄の種	月雪花は詩歌の種	流す秋波は戀の種	嘘は互いの不和の種	残る煙は癪の種	汚れた襟には垢がつき	次第に身體に箔がつき	活動寫眞に辯士がつき	立派な家は土蔵がつき	漸く波止場には山葵がつき	さしみのつまには山葵がつき	輝く胸には動章がつき	今夜は愉快に玉をつき	大切なる赤兒に乳母がつき	下駄は南部の表がつき	急所を刺れて胸がつき	兎角はなしに尾端がつき	遊びに行く時供がつき	落した園子に砂がつき	古風な劇場は構がつき	馳走の本膳頭がつき	古い女房は鼻がつき	儀式の着物に紋がつき	残した兎器で足がつき	親にさからひ指がつき	出掛る藝妓に箱屋がつき	鯨の背中に銚子がつき	立派に證書へ判をつき	二圓の定食五品がつき	辛い抱する氣が金の種	兎や角云ふは倍氣の種	立てた動は忠の種	井戸端會議は噂の種	喜怒哀樂は情の種	藝は我身を助く種	笑は金齒を見せる種	辛い後朝鐘の種	立身出世は孝の種	短氣は敵をつくる種	取ける讀者は疑義の種	拘摸に罹るは油断の種

附番べらく種世浮

行 樂は苦の種  
司 苦は樂の種

稼いで居るのも飯の種  
遊興はお金を減らす種

年 吝嗇の柿の種

前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關	前頭	前頭	前頭	前頭	小結	關脇	大關																													
槍ッ放しは怪我がの種	叔父の意見は慈悲の種	文は遊女の招く種	立てた浮名は縁の種	自棄は茶碗の酒の種	見せる手品に見せぬ種	見せる手品に見せぬ種	たまの浮氣は痴話の種	燃ゆる思ひは文の種	分けた形見は涙の種	好いた同志が苦勞の種	兄弟喧嘩は愁の種	振りまく愛嬌は客の種	吹く財布は愚痴の種	汚れた襟には垢がつき	次第に身體に箔がつき	活動寫眞に辯士がつき	立派な家は土蔵がつき	漸く波止場には山葵がつき	さしみのつまには山葵がつき	輝く胸には動章がつき	今夜は愉快に玉をつき	大切なる赤兒に乳母がつき	下駄は南部の表がつき	急所を刺れて胸がつき	兎角はなしに尾端がつき	遊びに行く時供がつき	落した園子に砂がつき	古風な劇場は構がつき	馳走の本膳頭がつき	古い女房は鼻がつき	儀式の着物に紋がつき	残した兎器で足がつき	親にさからひ指がつき	出掛る藝妓に箱屋がつき	鯨の背中に銚子がつき	立派に證書へ判をつき	二圓の定食五品がつき	辛い抱する氣が金の種	兎や角云ふは倍氣の種	立てた動は忠の種	井戸端會議は噂の種	喜怒哀樂は情の種	藝は我身を助く種	笑は金齒を見せる種	辛い後朝鐘の種	立身出世は孝の種	短氣は敵をつくる種	取ける讀者は疑義の種	拘摸に罹るは油断の種

大開 取つて見たいは龍の玉  
 關脇 潜つて見たいは不老門  
 小結 擽けて見たいは狸の拳丸  
 前頭 盗んで見たいは佛の顔  
 前頭 刺いで見たいは嘘の皮  
 前頭 折つて見たいは高慢の鼻  
 前頭 抜いて見たいは閻魔の舌  
 前頭 つまんで見たいは兒女の鼻  
 關脇 乗つて見たいは白駒の背  
 小結 吸つて見たいは美人の唇  
 前頭 出して見たいは狐の胸  
 前頭 堰いて見たいは大井川  
 前頭 持つて見たいは百人力  
 前頭 干して見たいは琵琶湖  
 前頭 成つて見たいは百萬長者  
 關脇 背負て見たいは奈良の大佛  
 小結 擦つて見たいは坊ヤの頬  
 前頭 飛んで見たいは清水の舞臺  
 前頭 退治て見たいは大江山の鬼  
 前頭 轉して見たいは柳の達磨  
 前頭 鳴して見たいは智恩院の鐘

行 喰つて見たいは人魚の刺身  
 司 住んで見たいは龍宮城  
 年 渡つて見たいは天の川  
 寄 行つて見たいは月世界

大開 振つて見たいは打出の小槌  
 關脇 開けて見たいは玉手箱  
 小結 遇つて見たいはかぐや姫  
 前頭 探つて見たいは布袋の臍  
 前頭 飛して見たいは藪の虎  
 前頭 嗅いで見たいは麝香鹿  
 前頭 聞いて見たいは地獄の裁判  
 前頭 握つて見たいは猿田彦の鼻  
 關脇 負れて見たいは仁王の背  
 小結 飲んで見たいは甘露水  
 前頭 開いて見たいは天の岩戸  
 前頭 撞いて見たいは無間の鐘  
 前頭 附けて見たいは天狗の翼  
 前頭 抑へて見たいは鏡餅  
 前頭 咲して見たいは喧嘩の花  
 關脇 登つて見たいは高天原  
 小結 つめて見たいはお三の尻  
 前頭 使つて見たいは天の瓊牙  
 前頭 嘗めて見たいは不老不死藥  
 前頭 割つて見たいは自分の腹  
 前頭 打つて見たいは三保神社の太鼓

大開 再縁せぬといふ若後家  
 關脇 憎らしい子だといふ親  
 小結 見せ様が遅いと云ふ醫  
 前頭 原價ですと云つて賣る商人  
 前頭 此次に買ふといふ素見  
 前頭 確かにきくといふ賣藥  
 前頭 嫁が可哀相ですと云ふ姑  
 前頭 座敷が明てるといふ宿引  
 關脇 水に未だ入らないといふ古着  
 小結 私は何もいらぬといふ娘  
 前頭 只今持て出ましたといふ誂へ  
 前頭 雷にお臍を取られるといふ親  
 前頭 奥様に告ますといふ女中  
 前頭 死つたばかりといふ魚賣  
 前頭 訴へると云つて脅す高利貸  
 關脇 直に着手ると云ふ印刷所  
 小結 始めてヤすと云ふ妾奉公  
 前頭 華族の落胤と觸廻る藝妓  
 前頭 無暗に話中と云ふ交換手  
 前頭 原價が切れると話す商人  
 前頭 貰ひ度くはないと云ふ話

行 早く死にたいと云ふ年寄  
 司 もう廢ますと云道樂息子  
 年 紺屋の明後日  
 寄 起請誓紙

大開 後妻は貰はないといふ男  
 關脇 嫁に往かないといふ娘  
 小結 屹度治して見ると云ふ呪  
 前頭 徳用と云つて勤める商人  
 前頭 此次に埋合すといふ客  
 前頭 貴郎だけといふ秘密話  
 前頭 昨夜は厚遇といふ女郎買  
 前頭 良家だと云つて勤める受宿  
 關脇 女は知らぬといふ三十男  
 小結 芝居は嫌ひだといふ娘  
 前頭 神社佛閣掲示の寄進金  
 前頭 泣とお化が来るといふ親  
 前頭 今夜又来るといふ朝歸客  
 前頭 辛くないといふ唐辛子好  
 前頭 堅い藝妓と媒介つ待合  
 關脇 確實に見たと威張る怪談  
 小結 夏出来る蕎麥屋の鴨南蠻  
 前頭 貴郎にばかりと云ふ藝妓  
 前頭 釣落した魚の大きき  
 前頭 損と云つて賣る縁日植木屋  
 前頭 不味と云つて呉れる飲食物







詩人てふ  
名に類骨な  
とがらかし(都良公)

盗所へ  
追手のかかる  
病み上り  
(古川柳)

今日の記事ひろげた  
上で爪を切り(叱咤郎)

猿殿の  
狂言の  
智慧なかり  
(紅太郎)

股引を出て来る  
禪鉈を磨き  
(さん坊)

尻餅は  
斯うつくものと  
起き上り(太郎丸)

降参を  
してゐるやうに  
シャツを脱ぎ  
(雨吉)



帽子掛  
主人の手から  
恐れ入り(五葉)

ホールドに  
向くと先生  
欠伸をし(以燦)

高齢者  
供奉員までも  
伏し拜み  
(小次郎)

提灯が  
地を削つて行く  
落し物(小次郎)

来り申す時  
(小次郎)

寝つたら  
また飲まうぞと  
背い顔(都良公)

騙は逃げ  
たのにしづかに  
手を開き  
(古川柳)







尻餅をつかすつもりで椅子をのけ (剣花坊)

泣いて居る窓とは知らず 景色屋(維想楼)

性は善なりもし何か落ちました (古川柳)

ねいた鶏一本々々 わめつける (古川柳)

レシーバー 落語になった 顔になり(のぶを)

長靴を脱ぐにひっくりかへりさう(英一)

持病の癪へだけの雪 (錦浪)



潮釣つてわざとあたまをぶつて見る

花見から歸れば家は鎖けて居る (剣花坊)

損料屋 忘れた名刺 見て笑ひ(金升)

少しの替根に車 押してやり (古川柳)

催促も 豊伯三年 越に聞き (久良岐)

飯粒はひとが教へる鼻の先 (剣花坊)



